

構造設計標準仕様書

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称
まんがんじ児童館改築工事

建築場所
東京都日野市万願寺四丁目2番地の12

(2) 工事種別

新築

増築

増改築

改築

(3) 構造種別

☒木造(W)

☐鉄骨造(S)

☐補強コンクリートブロック造(CB)

☐鉄筋コンクリート造(RC)

☐壁式鉄筋コンクリート造(WRC)

☐鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)

☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)

☐プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)

☐

(4) 階 数

地下 階

地上 1 階

塔屋 階

(5) 主要用途

児童館

(6) 屋上付属物

☐高架水槽

kn

☐キュービクル

kn

☐広告塔

☐煙突

(7) 特別な荷重

☐エレベータ

人乗(ロープ式 油圧式)

☐リフト

kn

☐ホイスト

kn

☐倉庫積載床用

N/m²

☐受水槽

kn

(8) 付帯工事

☐門扉

☐擁壁

☐

☐

☐有 ()

☐無

(9) 増築計画

☐有 ()

☒無

(10) 構造計算ルート

X 方向ルート -(1)

Y 方向ルート -(1)

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質管理強度 F _g =N/mm ²	スランプ cm	備考
捨コンクリート	☒ 普通	18	18	15	
土間コンクリート	☒ 普通	21	24	18	
基礎、基礎梁	☒ 普通	21	24	18	
柱、梁、床、壁	☐ 普通 ☐ 軽量				比重
	☐ 普通 ☐ 軽量				比重
押えコンクリート	☐ 普通 ☐ 軽量				比重
ラップルコンクリート	☒ 普通	18	18	15	
混和剤					

(2) コンクリートブロック(CB)

☐A種

☐B種

☐C種

厚さ

☐100

☐120

☐150

☐190

(3) 鉄筋

種 類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	☒ SD295	D10～D16	基礎	☒ 重ね継手
	☐			
	☐ SD345	D19～	基礎	☐ ガス圧接継手
	☐			
高強度せん断補強筋	☐			☐ 特殊継手
丸 鋼	☐ SR235			()
溶接金網(JIS G 3551)	☐			

(4) 鉄骨

種 類	使用箇所	現場溶接	備考
☐ SS400	☐ SM400	☐ SN400A、B、C	☐ 有 ☐ 無
☐ STKR400	☐ STKR490	☐	☐ 有 ☐ 無
☐ BCR295	☐ BCP235	☐	☐ 有 ☐ 無
☐ SM490A	☐ SN490B、C	☐	☐ 有 ☐ 無
☐ SSC400	☐	☐	☐ 有 ☐ 無

※使用箇所の詳細については別途図示とする。

(5) ボルト

☐高力ボルト

☐普通:F10T

☐特殊:S10T

認定品(☐M12☐M16☐M20☐M22☐M24)

☒中ボルト

高力ボルトすべり係数試験

☐要 ☐否

M12

高力ボルト導入張力確認試験

☐要 ☐否

☒アンカーボルト

☒Zマーク

M12

L=450mm

☐

M

L= mm

ナット (☒シングル☒ダブル)

ナット (☐シングル☐ダブル)

☐頭付スタッド

φ= mm

使用箇所 (☐柱 大梁 小梁)

使用箇所 (☐柱 大梁 小梁)

(6) 屋根、床、壁

☐ALC板

厚

☐折板

H= 厚

☐デッキプレート

形式

厚

☐キーストンプレート

形式

厚

☐特殊デッキプレート

☐

3. 地 盤

(1) 地盤調査

☒有(☒敷地内 ☐近隣)

☐ボーリング調査

☐平板載荷試験

☐水平地盤反力係数の測定

☐無(調査予定 ☐有 ☐無)

☐液化化判定

☐現場透水試験

☐土質試験

☒SWS試験

(2) 地盤調査計画

☐ボーリング調査

☐静的貫入試験

☐標準貫入試験

☐水平地盤反力係数の測定

☐土質試験

☐物理調査

☐平板載荷試験

☐

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、長杭、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成(基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土質	N 値	標準貫入試験						☐ 調査地盤
			10	20	30	40	50	60	
									☐ 位置図
									☐ 支持地盤、地層及び深さについてのコメント
									☐ 孔内水位 GL- m
									☐ 近隣データの調査地盤と設計地盤とは約 mの距離がある
									☐ 備考

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

☒コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5 2022年度版による。

☒耐久設計基準強度 F_d

☐短期

☒標準

☐長期

☒セメントは、 JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

☒調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。

☒測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

☒構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603は、標準水中養生もしくは、現場水中養生、現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

☒また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごまたは、その増数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。

☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃未満の場合は 150分、 25℃以上の場合は 120分以内とする。

(2) 鉄 筋

☒鉄筋は、 JIS G3112 の規格品を標準とする。施工は JASS5 2022年度版 による。

☐高強度せん断補強筋は、 JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。

☐鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鈎筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図」による。

☒D19未満は、すべて重ね継手とする。(D19以上をガス圧接とする場合は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。)

☐ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回試験は5本以上とする。

☐外観検査(☐有 ☐無) ☐引張試験(☐有 ☐無) ☐超音波深傷試験(☐有 ☐無)

☐柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、☐H型(タガ型) ☐W型(溶接型) ☐S型(スパイラルル型)とする。

☐コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験機関名

代行業者名

※代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型 枠

☒材料 合板厚 12mmを標準とする。

☒型枠存置期間

☒施工は JASS5 2022年度版 による。

種類 部位	せき板		支 柱			
	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下	
セメントの種類 有価期間平均気温	早強度 ポルトランドセメント	普通 ポルトランドセメント	早強度 ポルトランドセメント	普通 ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
	高炉セメントA種	シリカセメントA種	高炉セメントA種	シリカセメントA種	高炉セメントA種	シリカセメントA種
	15℃以上	2	3	4	6	8
	5℃～15℃	3	5	6	10	12
コンクリートの圧縮強度	5N/mm ²	設計基準強度の50%		設計基準強度の		
				85%	100%	

※片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。

※大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

※支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

※盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

※支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。

※一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。

※上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

☐日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工技術指針」

☐鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2) 工事管理者の承認を必要とするもの

☐制作工場

☐製作要領書

☐工作図

☐施工計画書

☐認定または登録工場 ()

グレード

都登録

ランク)

☐材料規格証明書または試験成績書

☐鋼材

☐高力ボルト

☐特殊ボルト

☐頭付スタッド

☐社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目

☐ (印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること)

☐現寸検査

☐組立・開先検査

☐製品検査

☐建方検査

☐

(4) 接合部の溶接は下記によること

☐東京都アーク溶接工事管理基準(建築構造設計指針第12章)

☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)

☐日本建築学会「溶接工作基準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

☐日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

☐溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		社内	第三者	工事管理者	
☐ 突合せ溶接部	超音波深傷試験	% 個	% 個	% 個	
	外観(目視)検査	%	%	%	
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事管理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					
※現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。					
※現場溶接部は、超音波深傷試験を100%行う事。					
☐ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態あること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。					
☐ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。					

7. 設備関係

☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。

☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの 1/3 以下とし管の間隔を管径の 3 倍以上かつ 5cm 以上を原則とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

☒必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

☐

工 事 名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事				
図 番	S-01	図 名	構造設計標準仕様書	縮 尺	
作成 年 月 日	監理 日野市総務部建築営繕課				
訂 正 年 月 日	設計 株式会社 工屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝				

木質工事特記仕様書

1. 一般事項

●は適用項目を示すものとする。

(1) 適用範囲
本仕様書は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。
木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

(2) 設計図書
設計図書とは標準図、特記仕様書、設計図、指示書(現場説明書及び質疑回答書を含む)をいう。

(3) 準拠する図書
設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。(※全て最新版による。)
「木造住宅工事仕様書」(住宅金融支援機構監修)
「公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版」(国土交通大臣官庁官庁営繕部監修)
「木造計画・設計基準 平成29年版」(国土交通大臣官庁官庁営繕部監修)
「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」(2017年版)(日本住宅・木材技術センター)
「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)
「木質構造設計標準・同解説」
上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

(4) 設計図書の優先順位
設計図書の優先順位は下記による。
1. 質疑回答書 2. 現場説明書 3. 特記仕様書 4. 設計図 5. 標準仕様書

(5) 設計図の表現
設計図上”化粧”とある表記は、プレーナー仕上げ若しくはサンダー掛け程度を示す。

(6) 疑義
疑義を生じた場合は監理者に申し出、その処理方法について協議する。

(7) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出
☐ 工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

(8) 施工図及びプレカット図の提出
工事に先立ち施工図を作成し監理者の承諾を受ける。
プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

(9) 製作工場・プレカット工場の選定
設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場、プレカット工場及び木工技能者を選定する。

(10) 各種試験・検査報告書の提出
施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2. 材料の品質

●は適用項目を示すものとする。

2.1 木質材料
(1) 構造用集成材、構造用単板積層材 (LVL)
本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用集成材・LVL】
ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部 位	樹種名	品 名 (LVLの場合は区分)	強度等級 (LVLの場合は曲げ性能)	材面の品質	使用環境	放 散 量
柱・梁	唐松	対称異等級	E95-F270	2種	A	F☆☆☆☆
柱	欧州赤松	同一等級	E95-F315	2種	C	F☆☆☆☆
柱・梁	欧州赤松	対称異等級	E105-F300	2種	C	F☆☆☆☆

(2) 構造用製材
本項の内容は特記無き限り、構造用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。
●【構造用製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
土台・大引き	桧	E70	SD20	指定なし	
梁	杉	E70	SD20	指定なし	
梁・間柱・梁頭	杉	JAS2級以上	SD20	指定なし	

☐ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
背割りを行う部材の有無
☐ 有 (背割りを行う場合は、見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。)
☒ 無
●強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように注意する。
☐ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級1級相当とする。

(3) 構造用合板、構造用パネル (OSB)、パーティクルボード、MDF等
本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格又はパーティクルボード、及びMDF等の日本工業規格に準拠する。
●【構造用合板・構造用パネル (OSB)、パーティクルボード、MDF等】
単板の樹種及び構成や防虫処理については必要に応じて特記する。

部 位	強度等級 (OSBの場合は曲げ性能)	板面の品質 (注1)	接着の程度 (構造用合板の場合に記入)	寸 法	ホルムアルデヒド 放 散 量
壁	2級	C-D	特類	9mm	F☆☆☆☆
床	2級	C-D	特類	24mm	F☆☆☆☆
屋根	2級	C-D	特類	12mm	F☆☆☆☆

※1. 構造用合板の板面の品質は、通常は1級及びB-C、2級がC-D
OSBの場合は、表面及び裏面に木材の小片の浮き上がりがないこと及び側面の切断面が平滑であること。
※2. 特注品の場合は納期に注意すること (2ヶ月以上)

(4) 丸太・そま角
本項の内容は特記無き限り、素材の日本農林規格などに準拠する。
☐ 【丸太・そま角】

部 位	樹種名	縦振動ヤング係数区分	等 級

2.2 接合具
接合具の材質は一般普及品を使用することを原則とし、特殊なものを使用したい場合は特記とする。
接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。
標準めっき処理は溶融亜鉛めっき鋼板：Z27 (JIS G 3302) 電気亜鉛めっき：Ep-Fe/Zn8/CM2 とする。

(1) くぎ、木ネジ

種 類	材 質	使用箇所	頭部／胴部形状	
● Z N 釘	鉄	JIS G 3532 SWM-N	補強金物類	平頭フラット／バープ
● C N 釘	鉄	JIS G 3532 SWM-N	壁、床、屋根合板	平頭フラット
☐				

(2) 木質構造用ビス

製品名	径 (mm)	長さ (mm)	使用箇所
● タルクック II TK6×185 II	6.0	185.0	垂木
☐			
☐			

(3) ボルト、ナット、座金
ボルト・ナットは JIS B 1180、JIS B 1181 の規格及び付属書 JA による。

種 類	材 質	径 (mm)	防錆処理、使用箇所など		
●呼び径六角ボルト ●有効径六角ボルト ☐ 金ネジボルト ☐	鉄	JIS B 1180 JIS B 1181 JIS B 1051	強度区分4.6又は4.8.4T以上に適合する炭素鋼	12	●電気亜鉛めっき ☐ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
●アンカーボルト ☐	鉄	JIS G 3101 JIS G 3138 JIS G 3505 JIS G 3501-1	SS400 SNR400B、490B SWRM8～10 SWRGH8～10	12	●電気亜鉛めっき ☐ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地
☐ 角座金 ●丸座金 ☐	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400	12	●電気亜鉛めっき ☐ ()
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304		生地

※設計図及び標準図記載以外の座金は、特記なき限り用途ごと (引張、せん断) に下表により使い分ける。
尚、ボルトとの組み合わせにより耐力が失われている羽子板ボルト等の座金は、その仕様に従する。(単位：mm)

座金の大きさ	ボルト径	8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	65	70	90	120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

(4) ドリフトピン、ラグスクリュー、木栓

種 類	材 質	径 (mm)	長さ (mm)	防錆処理、使用箇所など	
●ドリフトピン	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 4051	SS400 SNRM8～12 S10C	13	●溶融亜鉛めっき ☐ 電気亜鉛めっき
●ラグスクリュー (コーチボルト)	鉄	JIS B 1180 JIS B 1051 JIS G 3101	強度区分4.6 又は4.8 SS400	12	●電気亜鉛めっき ☐ ()
☐ 木栓	堅木 (樹種：)				

※ドリフトピンの先端テーパ部部長さ：10mm 以下
※木栓はナラ・ケヤキ・カシ等、気乾比重0.6以上の広葉樹で、節や目切れ等の欠点の無いものとし
先端は、3～5mm程度面取りすること。

(5) 接合金物、鋼材

種 類	品 名	メーカー等	防錆処理、使用箇所など
☐ 筋かい耐力壁の接合部			☐ 溶融亜鉛めっき ☐ 電気亜鉛めっき ☐ 溶融亜鉛めっき ☐ 電気亜鉛めっき
●柱頭・柱脚接合部 (小型接合金物)	B120	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13802-05)	●溶融亜鉛めっき
	SB-C	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13813-01)	●溶融亜鉛めっき
●柱頭・柱脚接合部 (小型接合金物)	SPT-10		●溶融亜鉛めっき
	M120	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13802-04)	●溶融亜鉛めっき
●横架材接合部 (小型接合金物)	J-18	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-01)	●溶融亜鉛めっき
	J-24	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-02)	●溶融亜鉛めっき
●接合部(製作金物)	J-36	Sマーク表示金物 (認定番号：SB2-13808-03)	●溶融亜鉛めっき
	設計図による		●溶融亜鉛めっき ●錆止め塗装

※Sマーク表示金物はK E S コネクター又は同等以上耐力を有するものとする。
※Sマーク表示金物は認定工場 (公財) 日本住宅・木材技術センター 性能認定金物) により製作、管理されたものとし、品質基準は同認定内容に準ずる。
※製作金物は設計図に示す。
・ボルト類

BT M	ボルト
LSB M	ラグスクリュー
DP φ	ドリフトピン
A bolt M	アンカーボルト
HTB M	ハイテンションボルト

・鋼板類

PL	鋼板
B. PL	ベースプレート
G. PL	ガセットプレート
R. PL	リブプレート
FB	フラットバー

(6) 接着剤 (接着接合)
ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とする。

製品名	使用箇所	備 考
☐		
☐		
☐		

3. 耐久性 (防腐・防蟻・耐候処理)

●は適用項目を示すものとする。

(1) 木材の防腐・防蟻処理
木材の防腐・防蟻処理は以下のいずれかとする。
・高耐久材の使用 (注：部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする)
・工場処理材 (注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる)
保存処理材 (性能区分)： K5 K4 K3 K2 K1
A0認証保存処理材： 1種 2種 3種
・現場処理： 塗布、吹付、浸漬 (特記無き場合は、処理量：300ml/m²、処理回数：2回)
(※接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。
給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を保護する。
処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)
使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理
土台	●心材または心持ち材 ☐ K3 ☐ () ☐ 塗布		
外周柱下部 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
外周筋かい下部 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
外周木質系面材耐力壁下部 1m	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
水周り	☐ () ☐ K3 ☐ () ☒ (塗布)		
その他	☐ () ☐ K3 ☐ () ☐ (塗布)		

(2) 土壌処理
☐ 防蟻薬剤による処理：薬剤 ()
特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
●防蟻薬剤による処理と同等以上の対策 (布基礎 (土間一体型))
☐ 土壌処理省略 ☐北海道 ☐東北 ☐北陸 ()
(※処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm、東石等の周囲20cmを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。)

(3) 耐候処理 (塗装)：劣悪環境に置かれる木材等を対象とする。

部位	製品名 (会社名)	塗り回数

4. 材料品質の検査方法

●は適用項目を示すものとする。

(1) 構造用集成材、構造用単板積層材 (LVL)
・搬入された製品について下記の項目の受け入れ検査を実施し、特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、日本農林規格 (JAS) の表示ラベル、または 納品書で確認すること。

(2) 構造用製材
現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の項目で受け入れ検査を実施し、記録を残す。また施工者の立会いを要する検査については、指定された検査要領に基づいて、適時採取り検査を実施する。
検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。
検査項目
●含水率測定 ● 抜き取り (部立：柱、梁、土台、大引) ☐ 全数
●材種・等級の確認 ● 抜き取り (部立：柱、梁、土台、大引) ☐ 全数
●外観検査 ● 抜き取り (部立：柱、梁、土台、大引) ☐ 全数
●寸法検査 ● 抜き取り (部立：柱、梁、土台、大引) ☐ 全数
・材種・等級を表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。
・含水率やヤング係数に表示ラベル、刻印された表示で確認し、化粧材は納品書で確認する。
・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材受け入れ時に行う。

(3) 構造用合板、構造用パネル等
・搬入される製品について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを、印字にて確認すること。

(4) 接合具
・現場または加工工場に搬入される接合具について抜き取りでの受け入れ検査を実施し、材質、径、長さ製品名等について特記仕様書等で指定された所定の製品であることを確認すること。
・同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

(5) 接合金物
・現場または加工工場に搬入される製作金物について受け入れ検査を実施し、形状、製品名等について特記仕様書等+詳細図で指定された製品であることを確認すること。
・同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

5. 木材の加工

●は適用項目を示すものとする。

(1) 加工寸法の精度
図面表示は仕上がり寸法である。
下記を除き、2.1 木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なしとなっている場合は、協議による。
構造用製材、構造用集成材、LVL の材長
● 軸組み工法の継ぎ手仕口及び金物工法の場合：小中断面：±1.0mm、大断面：±2.0mm以下
せん断用ボルト穴径 (dはボルト径)
集成材： d+1.0mm (d ≤ M12)、d+2.0mm (d ≥ M16)
接合金物等： d+1.0mm (d < M12)、d+1.5mm (d ≥ M12)
ドリフトピンの接合金物等の穴径：d+1.0mm (d ≤ M12)、d+1.5mm (d ≥ M16)
(dはドリフトピン径)
(2) 刻み時の注意
製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

(3) 表面仕上げ
☐ 製材 () ☐ 集成材・LVL () ☐ その他 ()
(4) 面取り
☐ 柱： () mm ☐ 梁： () mm
(5) 加工状況の検査
☐ 立会い検査
☐ 外観検査 ☐ 加工寸法検査
● 自主検査記録の提出

6. 運搬・建方

●は適用項目を示すものとする。

(1) 輸送計画
製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
☐ 輸送計画書の提出

(2) 集積・保管
集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。
降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。
☐ 集積場の確認

(3) 建方計画
☐ 建方計画書の提出
アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

(4) 施工時の安全性
建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
☐ 施工時の安全性に対する検討書の提出 ☐ 施工時荷重条件の通知

(5) アンカーボルトの施工
・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
・アンカーボルトはダブルナットとする。
● 適用除外 [Sマーク金物の仕様による場合]
・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

(6) 建方精度
・建方の精度基準は下記による。
※建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 建物の倒れ： ● e ≤ H / 2500+10mm かつ e ≤ 50mm
☐ ()
● 梁の水平度： ● e ≤ L / 700+5mm かつ e ≤ 15mm
(節点間のレベル差) ☐ ()
● 建物のわん曲： ● e ≤ L / 2500mm かつ e ≤ 25mm
☐ ()
● 柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差： ● ±3mm以下 ☐ ()
通り芯からの誤差： ● ±3mm以下 ☐ ()
階 高： ● -5mm ≤ ΔH ≤ +5mm
☐ ()

(7) 施工状況の検査
☐ アンカーボルト施工時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 地組み時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 建方時の立会い検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 建方後の施工状況の検査
● 施工者自主検査記録の提出
☐ 最終確認
工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
● 施工者自主検査記録の提出

7. 耐火性能

●は適用項目を示すものとする。

耐火性能	主要構造部の構造方法
☐ 45分準耐火構造 建築基準法第2条第7号の二 イ 耐火性能認定品仕様	国土交通省告示 第1358号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 35 mm 梁 35 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 45 mm 梁 45 mm
☐ 1時間準耐火構造 建築基準法第112条第2項	国土交通省告示 第195号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 45 mm 梁 45 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 60 mm 梁 60 mm
☐ 耐火構造	国土交通省告示 第1399号 一般社団法人日本木造住宅産業協会認定仕様 一般社団法人日本木造耐火建築協会認定仕様
☐ 主要構造部を木造とすることができる大規模の建築物 建築基準法第129条の2第3号	国土交通省告示 第1902号 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(集成) 柱 25 mm 梁 25 mm 木材表面の見え掛り部分燃えしろ(製材) 柱 30 mm 梁 30 mm

工 事 名

日野市立まanganじ児童館改築建築工事

図 番

S-02

図 名

木質工事特記仕様書

縮 尺

作成

年 月 日

監理

日野市総務部建築営繕課

訂 正

年 月 日

設計

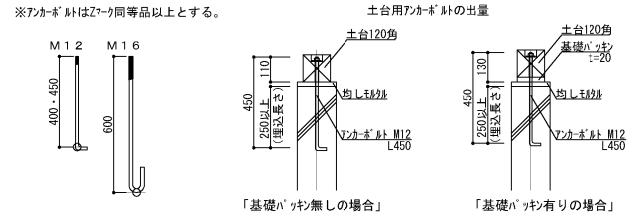
株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所
事務所会館 東京都知事 第16988号
設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝

木造標準図（１）

１．基礎

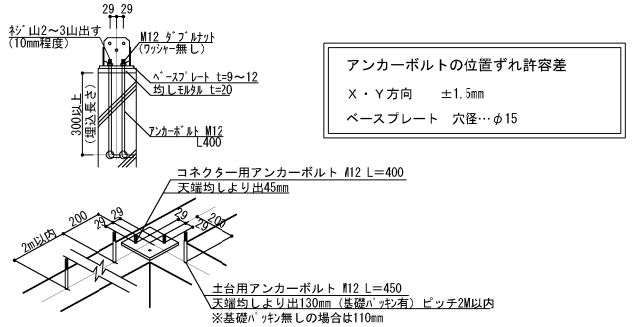
（１）アンカーボルトの設置

※ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄは2ﾎﾞﾙﾄ同等品以上とする。

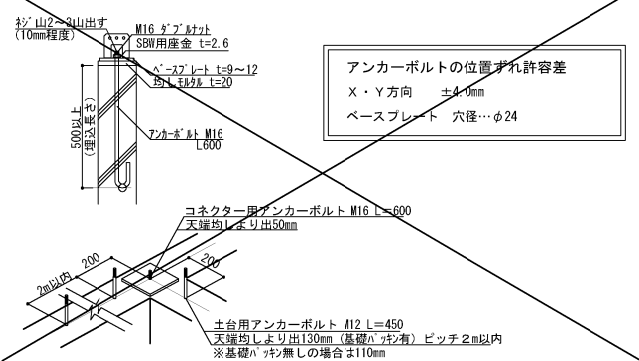


（２）Ｂコネクターの設置

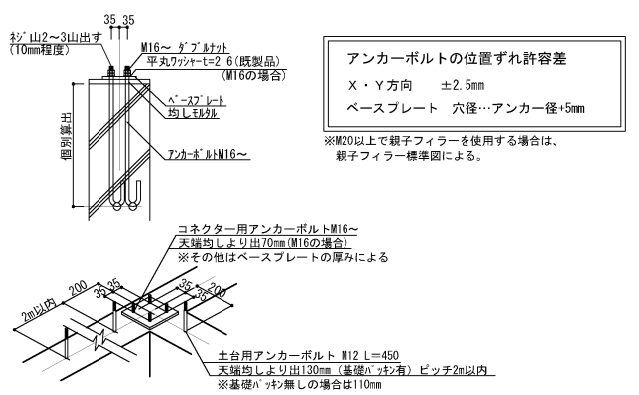
① Ｂ１２０コネクター（性能認定）



② ＳＢ-Ｗコネクター（性能認定）



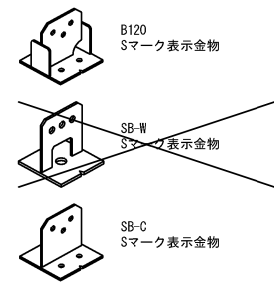
③ 製作柱脚コネクター（アンカーボルトM16以上で2列配置のもの）



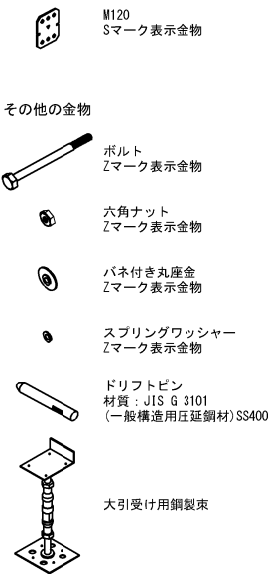
※特殊形状コネクターのアンカーボルトでM16を使用し、かつ、SB-Wコネクターが混同している場合は、SB-Wコネクターもダブルナットとする。

２．接合金物形状図

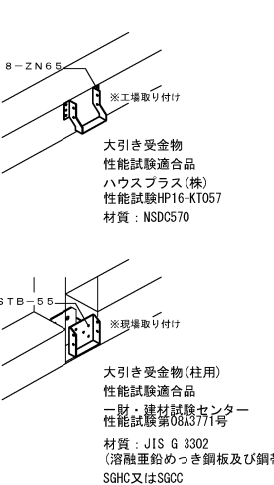
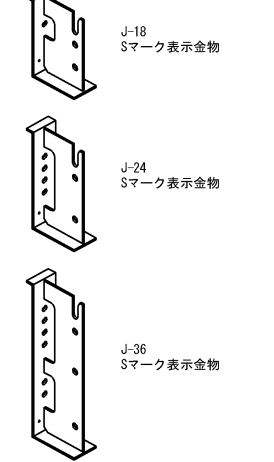
Ｂコネクター



Ｍコネクター

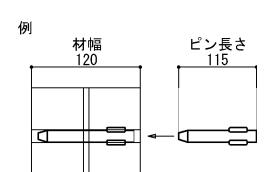


Ｊコネクター



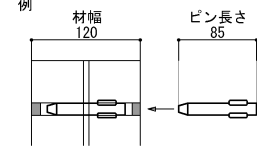
３．ドリフトピン（φ13）の長さ

（１）標準のドリフトピン長さ



標準のドリフトピン長さ
材幅120 ～ 139 → ピン 長さ115
材幅140 ～ 169 → ピン 長さ135
材幅170 ～ 219 → ピン 長さ165
材幅220 → ピン 長さ215

（２）化粧材に打込むドリフトピン長さ



化粧材に打込むドリフトピン長さ
材幅120 ～ 139 → ピン 長さ 85
材幅140 ～ 169 → ピン 長さ115
材幅170 ～ 219 → ピン 長さ135
材幅220 → ピン 長さ165

※化粧材のドリフトピンの打込みは、材幅に対して 1サイズ短いドリフトピンを使用する。
※ドリフトピンは材の中心まで追加で打込み、ピン穴は材の両側から埋木を取り付ける。
※埋木の取付け方法は施工マニュアル参照

４．化粧材の面取り加工

標準寸法表		材幅 W		
H	材幅	105～140	141～170	171～220
		140以下 3mm	141以下 3mm	171以下 3mm
H	材幅	170以下 3mm	171以下 3mm	171以下 3mm
		220以下 3mm	220以下 3mm	220以下 3mm
H	材幅	500以下 3mm	500以下 6mm	500以下 6mm
		500超 6mm	500超 6mm	500超 6mm

※梁の場合は、下端2面を表の面取り幅とし、上端2面は糸面を原則とする。
※柱・方杖等は4面とする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

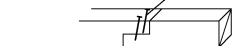
柱の丸面取り寸法表【 老人福祉施設及び幼稚園、保育園 】

		材幅 W	
H	材幅	140以下	140超
		140以下 6R	140超 6R
H	材幅	140超 6R	140超 9R

※FLより2m程度の高さとする。
※別途指定がある場合は、構造図に特記を記載する。

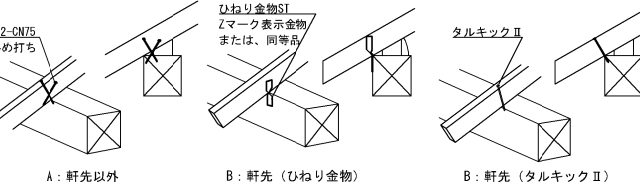
５．二次部材の納まり

（１）土台・大引継手

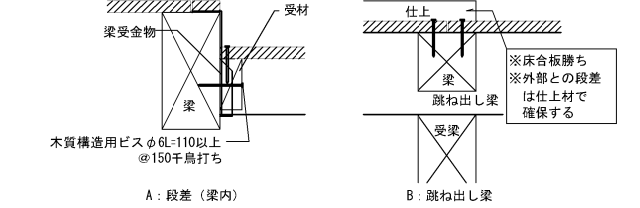


（２）垂木-母屋の接合部

※構造計算を行い下記以外の納まりとする場合は、詳細図による。

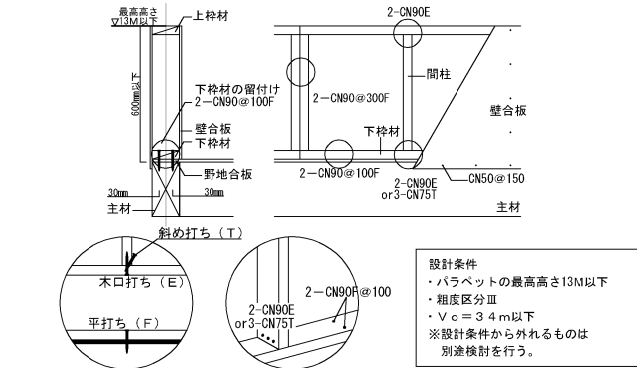


（３）床合板



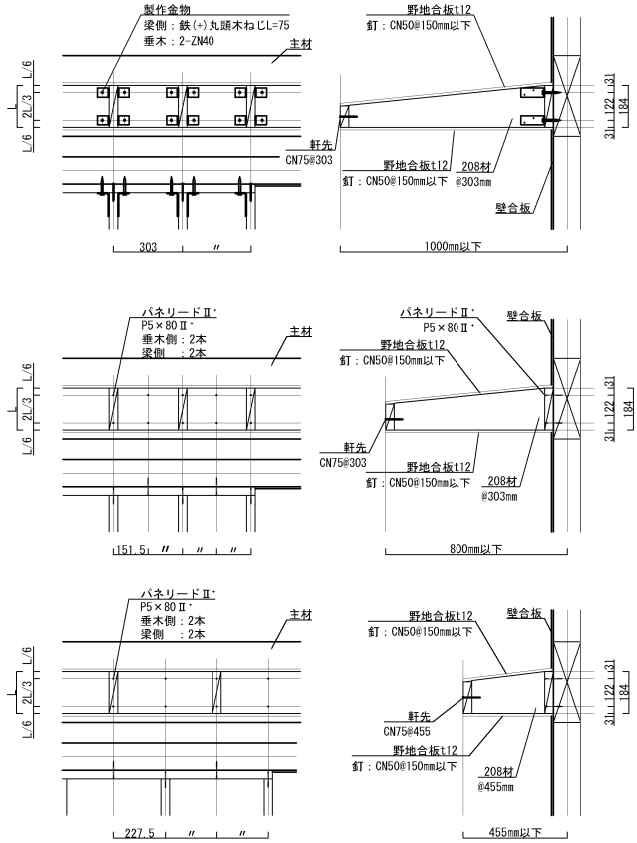
間柱太の釘ピッチ		床合板の釘ピッチ		
間柱太のサイズ	間柱太のサイズ	①150	①100	①75
		2-N90@250	2-N90@200	2-N90@150
間柱太のサイズ	間柱太のサイズ	38x140	38x90	38x90
		125 125 125 125	100 100 100 100 100	75 75 75 75 75 75
間柱太のサイズ	間柱太のサイズ	45x120	45x90	45x90
		125 125 125 125	100 100 100 100 100	75 75 75 75 75 75
間柱太のサイズ	間柱太のサイズ	45x90	45x90	45x90
		125 125 125 125	100 100 100 100 100	75 75 75 75 75 75

（４）パラベット

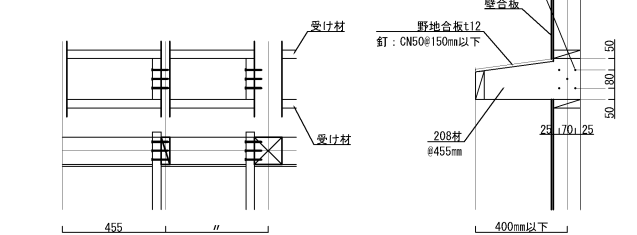


（５）付け庇

梁に取りつける場合
・庇勾配は1.0寸までとする。
・壁合板施工前に取り付ける。
・垂木を格子状に組み立てた後、主材の梁にバネリードで留め付ける。



間柱に取りつける場合
・垂木幅は38mm以上とする。
・壁合板施工前に取り付ける。
・垂木の取付は、間柱に型板を添えN70釘5本を平打ちする。



工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事		
図 番	S-03	図 名	木造標準図（１）
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝

木造標準図（２）

6. 面材耐力壁

（注）（単位）mm

6.1 共通事項

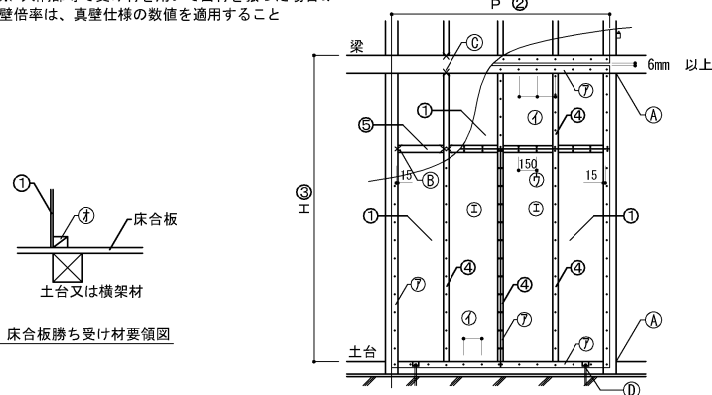
- ・面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする。左記を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
- ・耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
- ・柱の有効細長比（断面の最小二次率半径に対する座屈長さの比）は、150以下とすること。

6.2 面材耐力壁の仕様

（１）昭56建告1100号に準じた耐力壁号に準じた耐力壁 面材種類：構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル（OSB）

a. 面材張り大壁仕様耐力壁

※ 入隅部等で受け材を用いて面材を張った場合の壁倍率は、真壁仕様の数値を適用すること



a-1. 高倍率仕様大壁耐力壁 壁倍率：3.7

① 面材および壁倍率	構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上・・・3.7 倍
② 柱間隔	600mm ≦ P ≦ 2500mm
③ 高さ	H ≦ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下
⑤ 中棧	幅45mm以上

2) 各部仕口形状及び性能

① 各階の柱頭柱脚部	水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
② 中棧端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
③ 間柱端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
④ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から 200mm内外）に1本ずつ設ける

3) 面材の釘打ち方法

※ 構造用合板には、CN釘を用いること。

⑦ 面材の釘打ち	面材の4周を釘打ちする 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
	柱及びはりに対するかかり寸法 22.5mm以上
	面材に対するへり空き 10mm以上
	柱はりのへり空き 12.5mm以上
① 横架材・柱	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下
② 中棧	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下
③ 間柱	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下
④ 受け材	受け材 45×60以上
※床合板勝ち仕様の場合	受け材 釘 N90@120mm以下（両面張りの場合は、@60mm以下） 受け材と柱梁

a-2. 標準仕様大壁耐力壁 壁倍率：2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm・・・2.5 倍 構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上・・・2.5 倍
②③④⑤	e-1.（高倍率仕様）に同じ

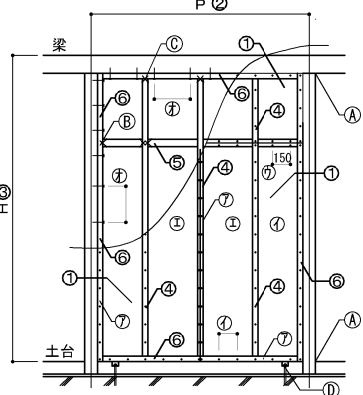
2) 各部仕口形状及び性能

①②③④⑤	e-1.（高倍率仕様）に同じ
-------	----------------

3) 面材の釘打ち方法

⑦ 面材の釘打ち	e-1.（高倍率仕様）に同じ
① 横架材・柱	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
② 中棧	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
③ 間柱	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
④ 受け材	受け材：45×60以上
※床合板勝ち仕様の場合	受け材と柱梁：釘 N90@200mm以下（両面張りの場合は、@100mm以下）

b. 受け材付き真壁仕様耐力壁



b-1. 高倍率仕様真壁耐力壁 壁倍率：3.3

① 面材および壁倍率	構造用合板 t=9 mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上・・・3.3 倍
② 柱間隔	600mm ≦ P ≦ 2500 mm
③ 高さ	H ≦ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下
⑤ 中棧	幅45mm以上 ⑥ 受け材 幅45mm以上

2) 各部仕口形状及び性能

① 各階の柱頭柱脚部	水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
② 中棧端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
③ 間柱端部	突き付けの上、2-N75 斜め釘打ち
④ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置（柱芯から 200mm 内外）に1本ずつ設ける

3) 面材の釘打ち方法

※ 構造用合板には、CN釘を用いること。

⑦ 面材の釘打ち	面材の4周を釘打ちする 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
	受け材に対するかかり寸法 22.5mm以上
	面材に対するへり空き 10mm以上
	受け材のへり空き 12.5mm以上
① 外周受材	構造用合板：CN50@75mm以下、左記以外の面材：N50@75mm以下
② 中棧	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下
③ 間柱	構造用合板：CN50@150mm以下、左記以外の面材：N50@150mm以下
④ 受け材	受け材 45×60以上
	受け材と柱梁 構造用合板、構造用パネル：釘N90N @200mm以下（両面張りの場合は、@100mm以下）

※ 床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法は a-1. に準ずる

b-2. 標準仕様真壁耐力壁 壁倍率：2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9 mm、構造用MDF t=9mm・・・2.5 倍 構造用合板 t=9mm 以上、構造用パネル（OSB） t=9mm以上・・・2.5 倍
②③④⑤⑥	b-1.（高倍率仕様）に同じ

2) 各部仕口形状及び性能

①②③④⑤⑥	b-1.（高倍率仕様）に同じ
--------	----------------

3) 面材の釘打ち方法

⑦ 面材の釘打ち	b-1.（高倍率仕様）に同じ
① 外周受材	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
② 中棧	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
③ 間柱	N50@150 mm 以下（釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する）
④ 受け材	受け材：45×60以上
	受け材と柱梁：釘 N90@300mm以下（両面張りの場合は、@150mm以下）

※床勝ち仕様の場合の受け材及び釘打ち方法は a-2. に準ずる

（２）倍率ごとの凡例

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
▽9	7.0倍	＜大壁側＞ 3.7倍 ＜真壁側＞ 3.3倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@60mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽6	6.6倍	＜真壁側＞ 3.3倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部 CN50@75mm以下 中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@60mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽5	5.0倍	＜大壁側＞ 2.5倍 ＜真壁側＞ 2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽5	5.0倍	＜真壁側＞ 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽5	5.0倍	＜大壁側＞ 2.5倍 ※両面大壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@100mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽4	3.4倍	＜大壁側＞ 2.5倍 (合板) ＜大壁側＞ 0.9倍 (石膏ボード)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@100mm以下 GNF40またはGNC40@150mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 石膏ボード 12.5mm 床勝り合板
▽4	3.4倍	＜真壁側＞ 2.5倍 (合板) ＜大壁側＞ 0.9倍 (石膏ボード)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@100mm以下 石膏ボード 12.5mm	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 石膏ボード 12.5mm 床勝り合板
▽5	2.5倍	＜大壁側＞ 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽5	2.5倍	＜真壁側＞ 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ﾊﾞﾈﾙ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N50@200mm以下	構造用合板 9mm 又は OSB 9mm 床勝り合板
▽1.8	1.8倍	＜大壁側＞ 2.5倍 ※両面大壁	石膏ボード 12.5mm	外周部・中通り GNF40またはGNC40@150mm以下	石膏ボード 12.5mm 石膏ボード 12.5mm 床勝り合板

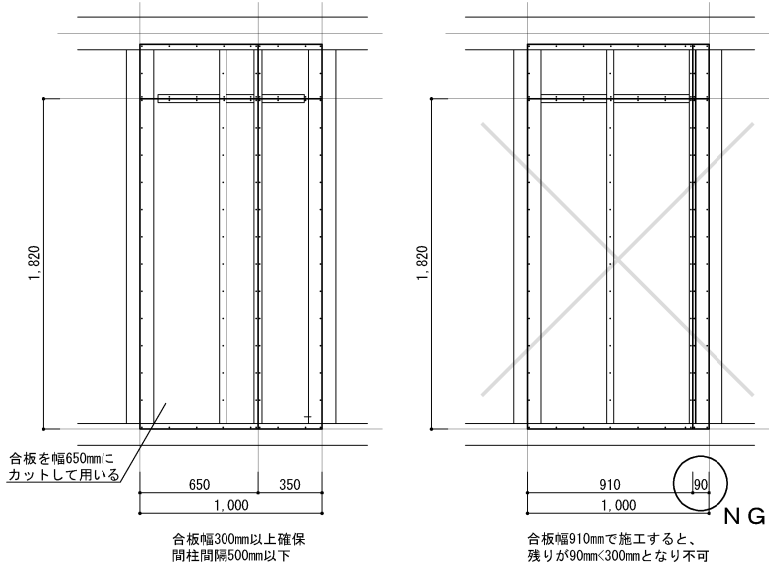
※石膏ボードの真壁・床勝りの受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝り・壁勝りどちらも対応可とする。

（３）非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板/構造用パネル	CN50・N50等	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40等	@200程度

（４）耐力壁を構成する合板の幅は300mm以上とする
例：耐力壁 1mに対しての合板910×1820mmの貼り方

○良い例



工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事		
図 番	S-04	図 名	木造標準図（２） 縮 尺
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東 京 都 知 事 第 1 6 9 8 8 号 設計者 一級建築士 第 2 6 7 3 7 1 号 菅野孝

木造標準図（3）

6 B. 昭56 建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

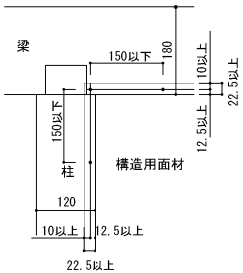
(注) (単位) mm

6B.1 共通事項

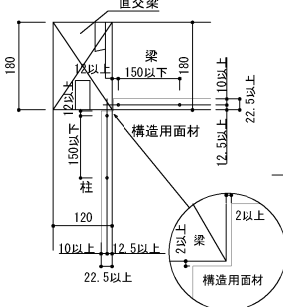
- ・面材は、9mm以上を標準とする。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および皮付き材は不可とし、四面ビン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。
記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ+1本」と読むこととする。

1. 直交梁との取り合い

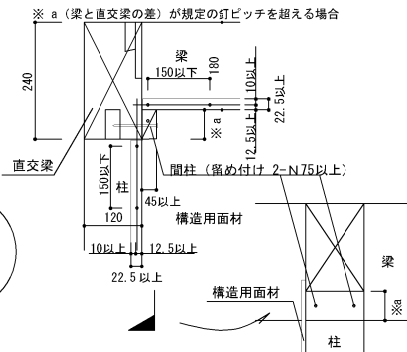
A : 通常



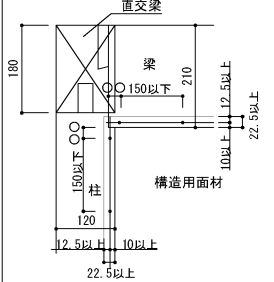
B : 合板端欠



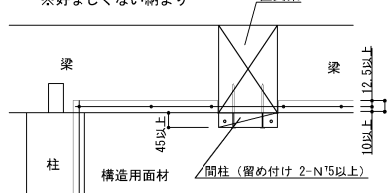
B-2 : 合板端欠



C : 柱持たせ

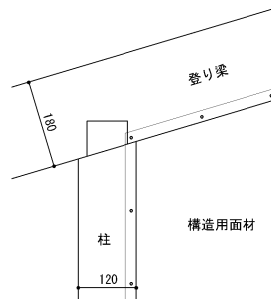


D : 耐力壁内に直交梁が在るとき ※好ましくない納まり

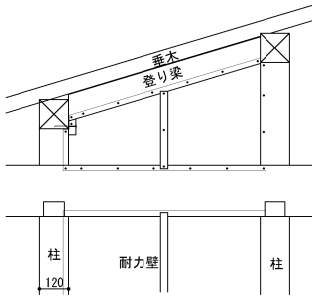


2. 勾配屋根の納まり

A : 登梁

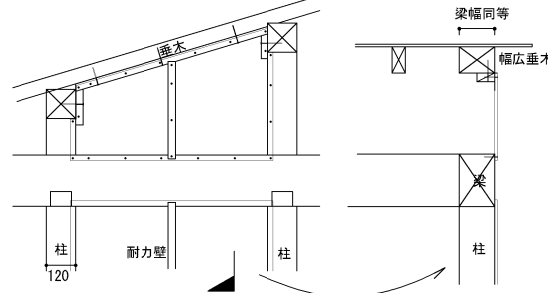


B : 妻側横面納まり



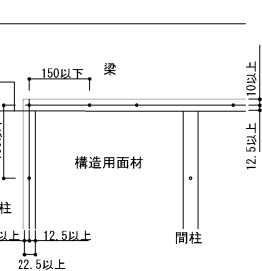
- ・開口直下の梁への間柱欠きは、原則行わない事。
- ・間柱（受材）を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。
※受け材厚 30mm の場合は、N75、CN75以上
※受け材厚 45mm（耐力壁：水平力のみを負担する場合）は、N90、CN90以上（真壁の受け材留め付けと合わせる）
※受け材厚 45mm（水平構面：鉛直力と水平力を負担する場合）は、N115、木質構造用ビス L110以上

C : 登梁無し妻横面

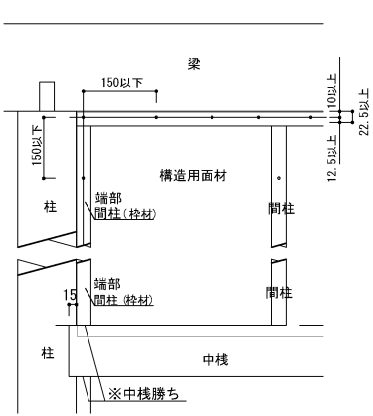


3. 受材・間柱勝ち負けルール

A : 枠無し

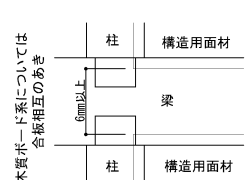


B : 枠有り

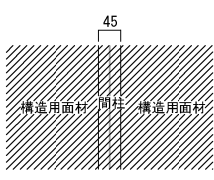


4. 面材相互あきのルール

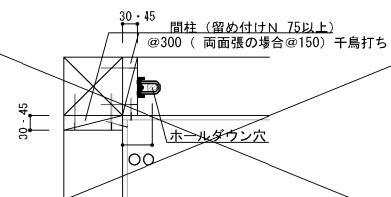
A : 上下面材あき



B : 間柱取付面材あき



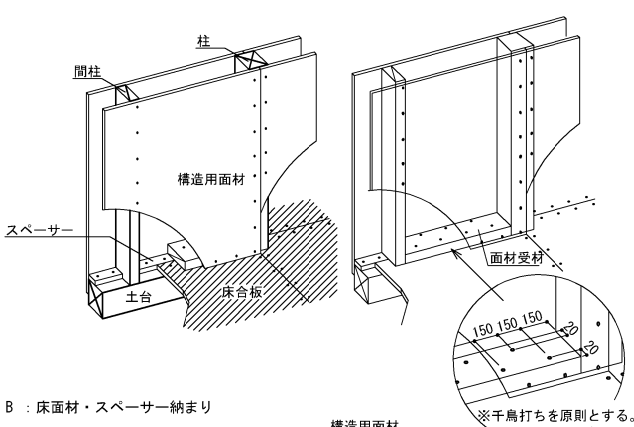
5. 入隅時納め、及び枠材用ホールダウン納め



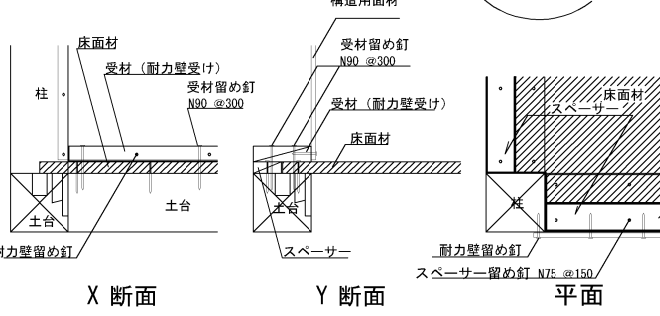
- ※ (株) タナカ 枠材用ホールダウン Hi M.L (30, 45)
- ※ (株) カネシン 枠材用フレックスホールダウン 枠材厚 45mm まで

6. 床勝面材との取り合い

A : 面材受材納まり

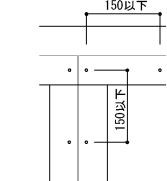


B : 床面材・スプーサー納まり

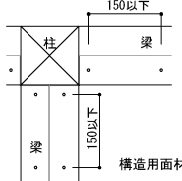


7. 水平構面

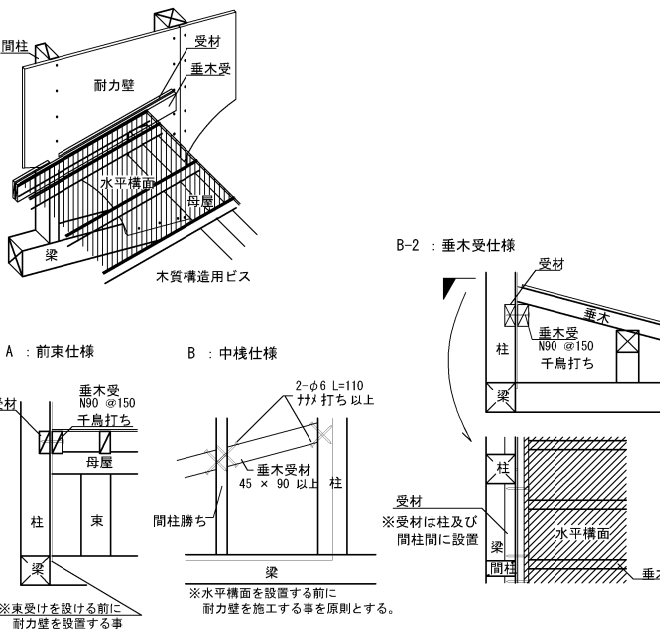
A : 通常



B : 合板端欠

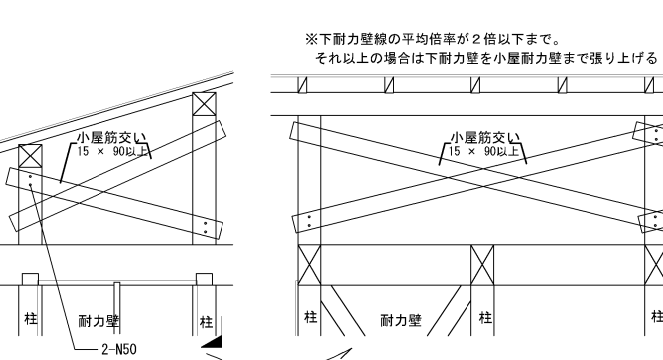


8. 下屋部分の納まり

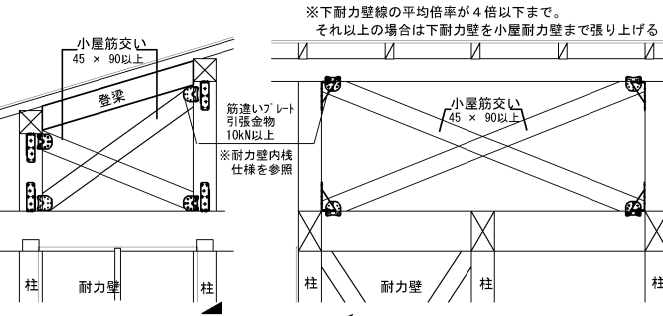


9. 小屋筋交い

A : 2倍耐力壁仕様



B : 4倍耐力壁仕様



工 事 名 日野市立まanganji児童館改築建築工事

図 番 S-05 図 名 木造標準図（3） 縮 尺

作 成 監 理 日野市総務部建築営繕課

訂 正 設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所
事務所登録 東京都知事 第16988号
設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝

木造標準図（４）

7. 水平構面

（注）（単位）mm

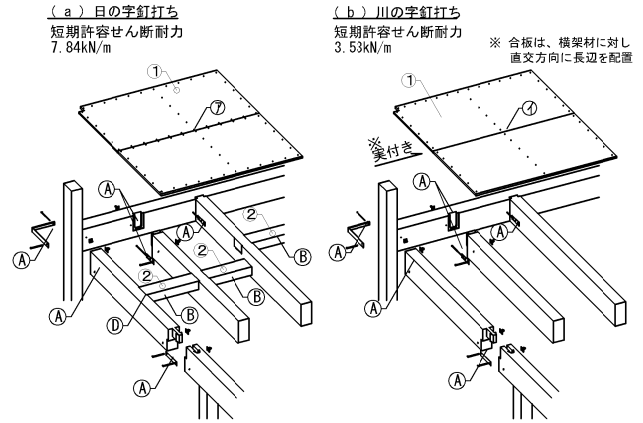
7.1 共通事項

・木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年）の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。

・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

（１）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面



1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ ～ 30mm 横架材に直貼
- ② 甲乙梁：幅 45mm 以上×せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑦ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ N75 1本斜め打ち

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@150mm 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
- ④ 構造用合板はN75@150mm 川の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
※ 構造用合板は、実付きとする
※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。

注意事項：構造用合板（又は OSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
川の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、壊み等に注意する事

告示耐力壁－床納まり

大壁合板耐力壁－床構面（壁勝）

真壁合板耐力壁－床構面（壁勝）

筋違耐力壁－床構面（筋違勝）

認定仕様例示）日合連（JPIA）仕様耐力壁－床納まり

大壁合板耐力壁－床勝 認定番号：FRM-0296

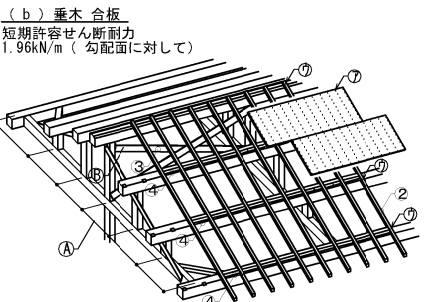
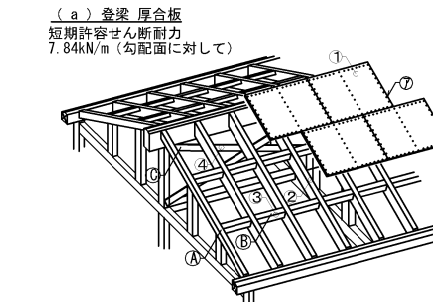
真壁合板耐力壁－床勝 認定番号：FRM-0298

筋違金物による床勝納まり

筋違耐力壁－床構面（床勝 大臣認定仕様）

会社名 認定番号

（２）木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ ～ 30mm 横架材に直貼
- ② 登梁：幅 105mm 以上×せい 105mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ③ 甲乙梁：幅 45mm 以上×せい 45mm 以上 間隔 1000mm 以下
- ④ 小屋耐力壁：15mm以上× 90mm 以上（端部は平12 建告 1460 号の筋違耐力壁の接合）

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75 @150mm で日の字に垂木に留め付ける
※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。

注意事項：構造用合板（又は OSB）に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

1) 各部材料および寸法

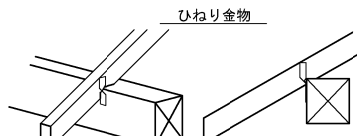
- ① 面材：構造用合板 $t=9\text{mm}$ ～ 15mm （横置）
- ② 垂木：幅 45mm 以上×せい 45mm ～ 90mm @500mm以下
- ③ 小屋耐力壁：15mm以上× 90mm 以上（端部は平12 建告 1460号の筋違耐力壁の接合）
- ④ 転び止め：45mm× 60mm 程度

2) 各部仕口形状及び性能

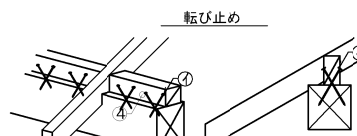
- ④ 母屋ピッチ：100mm以下
- ⑤ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁（くも筋違い）を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

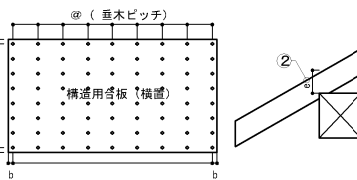
- ⑦ 構造用合板はN50@150mm で川の字に垂木に留め付ける
※ 釘仕様の特記記載がある場合は、構造伏図の釘仕様を優先する。
- ④ 転び止めを梁に 2-N75 斜め釘止め
- ⑦ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒先、母屋、棟木の上面に対して N75 釘2本打ち



注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木－母屋の接点全てに使用する



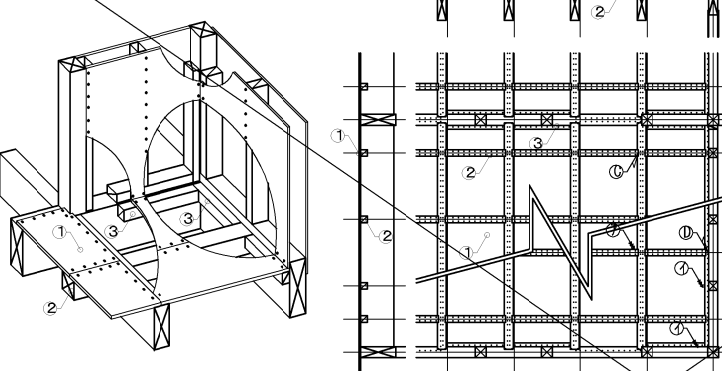
注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木－母屋の接点全てに使用するN75 釘4本（表2本と裏2本を千鳥配置）斜め打ち



- a: 面材上下端まで 10mm
- b: 面材左右端まで 10mm
- c: 軸材端まで（最小値）12.5mm

7.3 JISA3301 仕様高耐力水平構面

（１）2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
- ② 甲乙梁：90mm× 90mm の正角材又は幅 75mm ×成 120mm 製材を平使い
- ③ 大梁側面に取り付けの床受材：幅 55mm ～ 75mm ×成 120mm の製材

2) 各部仕口形状及び性能

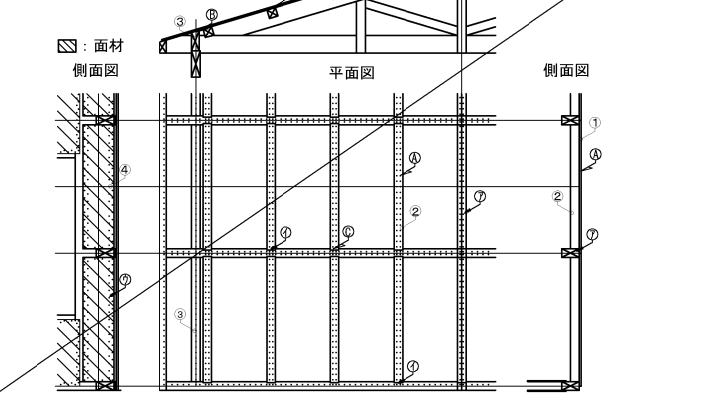
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ 15mm ×成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材勝ちの納まりとする

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@75mm 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- ④ 大梁側面へ取り付けの床受材は木質構造用ビスφ 6、L130～150を150mmピッチの二列打ちとして留め付ける

（２）屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m（合板釘ピッチ75mm）
19.1kN/m（合板釘ピッチ50mm）



1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
- ② 母屋：幅 120mm ×成 120mm の製材
多雪区域（3級及び4級）の場合は幅 120mm ×成 150mm の製材
- ③ 軒先転び止め：幅 105mm ×成 300mm の製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
- ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板： $t=12\text{mm}$

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
- ⑤ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ

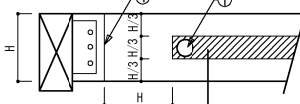
3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm 4周（口の字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm 4周（口の字）釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
- ④ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビスφ5、L150（頭部径φ12.5以上ねじ部長さ50以上）1本を斜め打ちとする
- ⑦ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50くぎを50mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔： $d \leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔： $d \leq 30\text{mm}$ （隣り合う孔は3d以上離す）
- ③ 縦小貫通孔： $d \leq b/6$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



大貫通孔を設けることができる範囲



梁の側面に小貫通孔を設けることのできる範囲

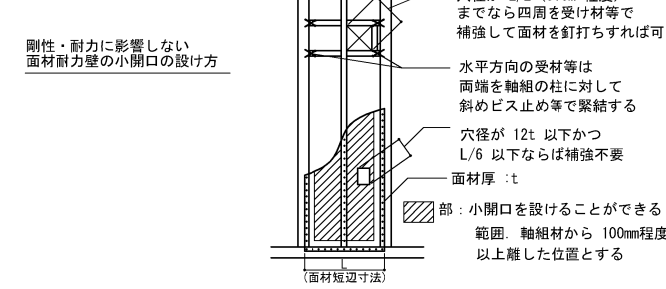


梁の上下面に小貫通孔を設けることのできる範囲（大貫通孔は不可）

8.2 耐力壁貫通孔

（１）小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年版）

※壁倍率 7 倍までの孔開けルール



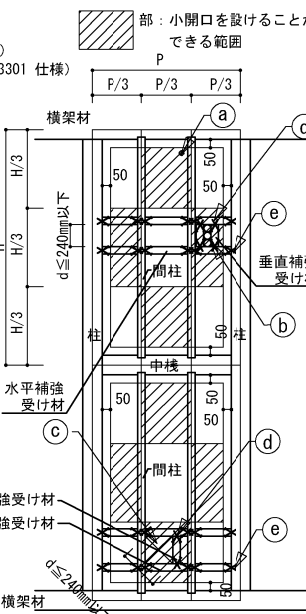
（２）高耐力仕様合板貼耐力壁（JISA3301 標準仕様）
※壁倍率 7 倍を超える場合の孔開けルール（JISA3301 仕様）

a) 貫通孔基準

- ④ 小貫通孔（ $d \leq 30\text{mm}$ ）
1区画につき 1か所までなら補強不要
- ⑤ 小貫通孔×3（外接円の径 $d \leq 240\text{mm}$ ）
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可
- ⑥ 大貫通孔（ $d \leq 240\text{mm}$ ）
四周を補強受材で補強
面材 1枚につき 1か所のみ可

b) 釘打ち及び断面

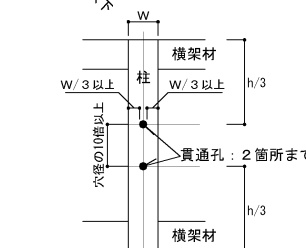
- ④ 合板から補強受材へ N50@90mm で釘打ち
補強受材は間柱と寸寸以上の断面
- ⑥ 補強受材の留め付けは斜めビス 2 本止め



8.3 柱貫通孔の条件及び仕様

柱幅W	最大穴径
120mm以上	30mm以下
105mm	20mm以下

※貫通孔は2箇所までとする。
※上記より貫通孔を大きくするときは設計者の確認をとる。
※方柱が取り付く柱においては水平力を負担するので貫通孔を設けないこと。



工 事 名 日野市立まanganじ児童館改築建築工事

図 番 S-06 図 名 木造標準図（４） 縮 尺

作 成 年 月 日 監理 日野市総務部建築営繕課

訂 正 年 月 日 設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所

事務所 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）適用範囲

構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径
e・・・間隔 r・・・半径 e・・・中心線 h・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S.HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度 90° はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む T 形および L 形梁のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※ 4d以上）	8d以上（※ 4d以上）	キャップタイ
折曲げ内法寸法 R は、SR235 は 3d 以上、SD295A、SD295B、SD345 の D13 以下は、3d 以上、D19 以上は 4d 以上				※片持スラブ、上端筋の先端

（２）鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度 90° 以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法 (R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A、SD295B、SD345	16φ 以上 D16	3d 以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A、SD295B、SD345	19φ 以上 D16	4d 以上
			16φ 以上 D16	6d 以上
			19φ～25φ D19～D25	8d 以上
			28φ～32φ D29～D38	

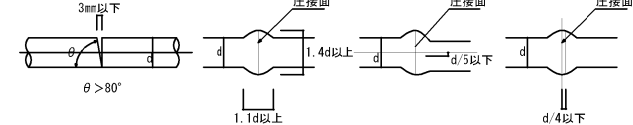
（３）鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び 重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₂)		
			小梁	スラブ	
SR235	21 ～ 36	35dフックつき	25d フックつき	15d フックつき	35dフックつき
	18以下	45dフックつき			45dフックつき
SD295A SD295B SD345	21 ～ 36	35d または 25dフックつき	25d または 15dフックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30dフックつき			45d または 35d フックつき

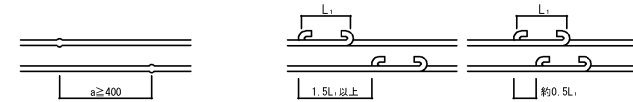
継手

- ・末端部のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- ・継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- ・直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- ・D29 以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- ・鉄筋径の差が 7mm を超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



圧接継手



（４）かぶり厚さ（単位：mm）

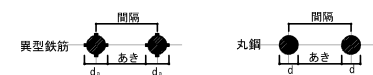
ひびわれ誘発巨地部など鉄部のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30
	床スラブ	40
	耐力壁	40
	はり	40
土に接する部分	耐力壁	50
	柱・はり・スラブ・耐力壁	50
	基礎	70
	擁壁	70

※(1) 軽量コンクリートの場合は、10mm 増しの値とする。
※() 内は仕上げが効く場合。

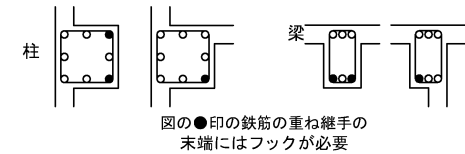
（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値 1.5d 以上
粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25 以上



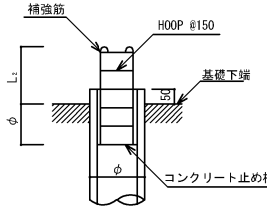
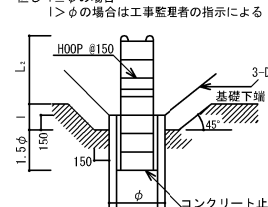
（６）鉄筋のフック (a-f に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a：丸鋼 b：あばら筋・帯筋 c：煙突の鉄筋
d：柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
e：単純梁の下端筋
f：その他、本配筋標準に記載する箇所

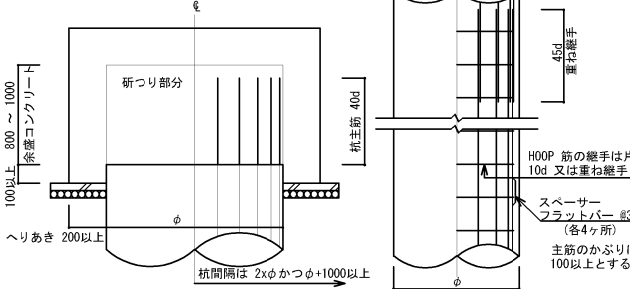


３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

（１）PC 杭、又は PHC 杭の全てに補強を行う

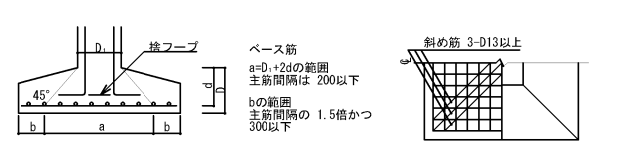
所定の場所に止まった場合			所定より低く止まった場合		
			但し $L \leq \phi$ の場合 $L > \phi$ の場合は工事監理者の指示による		
					
杭 径	300 φ、350 φ	400 φ	450 φ	500 φ	600 φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
H O O P			D10-@150		

（２）現場打ちコンクリート杭 杭頭処理

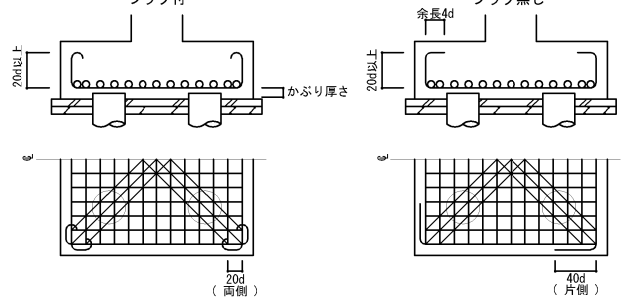


４．基礎

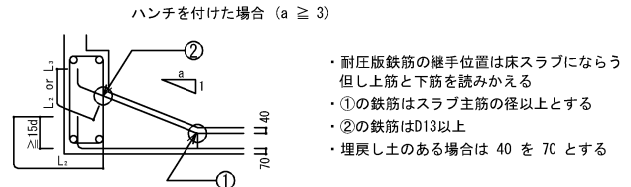
（１）直接基礎



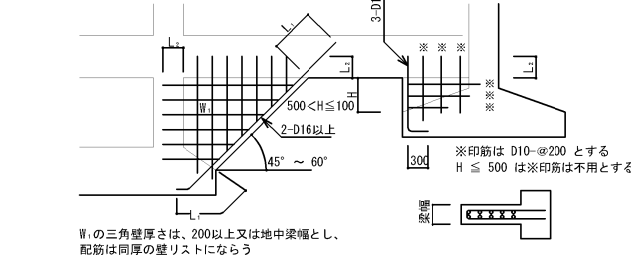
（２）杭基礎



（３）べた基礎

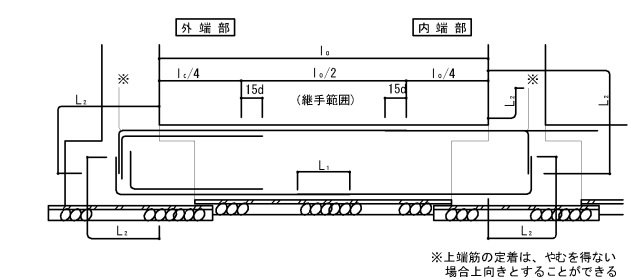


（４）基礎接合部の補強

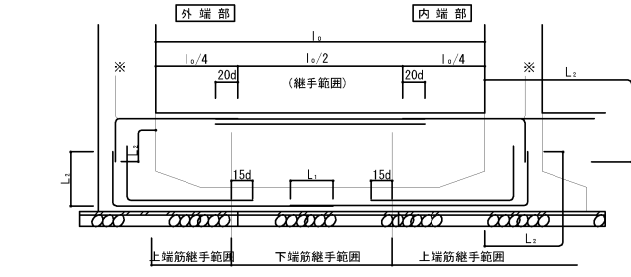


５．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

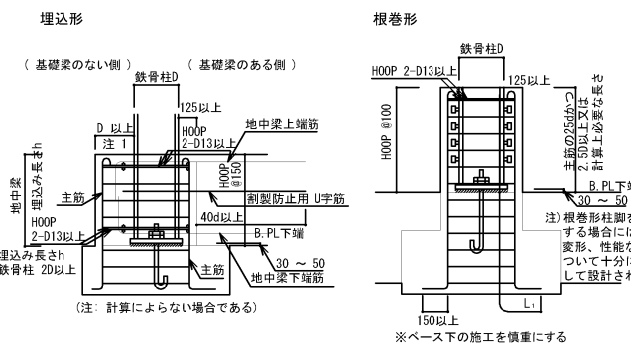


（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

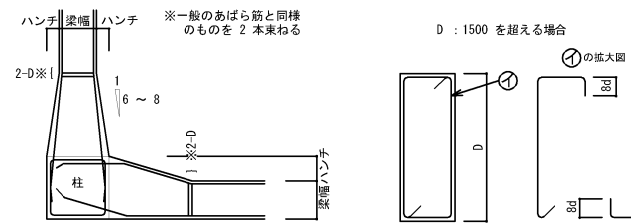


（３）小規模鉄骨構造の柱制固定の配筋

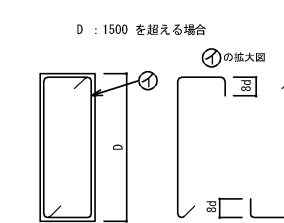
※地中梁の主筋と頭付スタッドによる、おさまりに注意する



（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

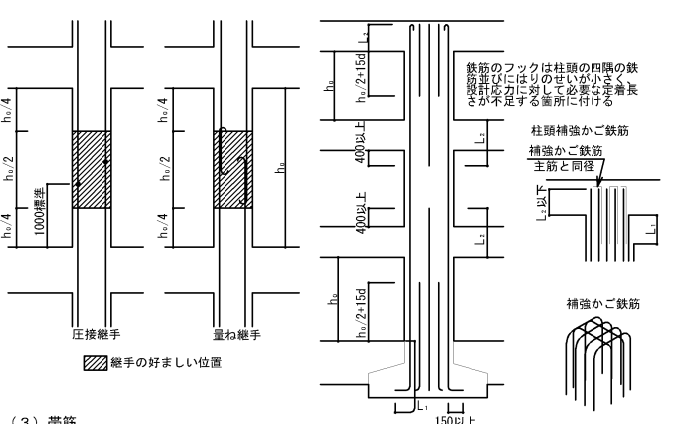


（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

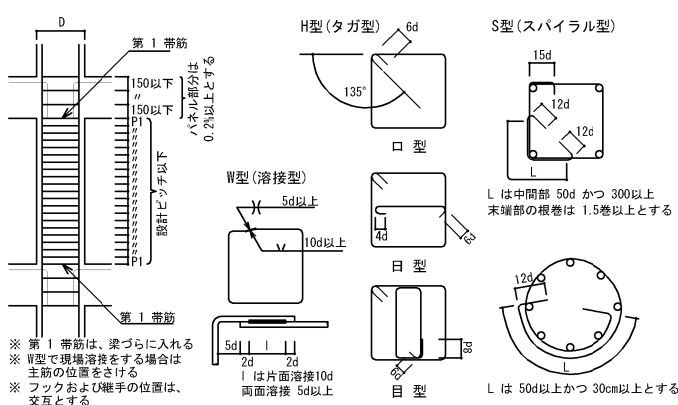


６．柱

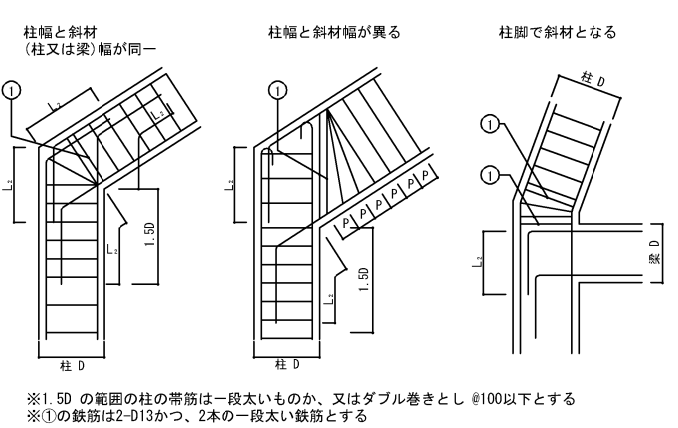
（１）柱主筋の継手



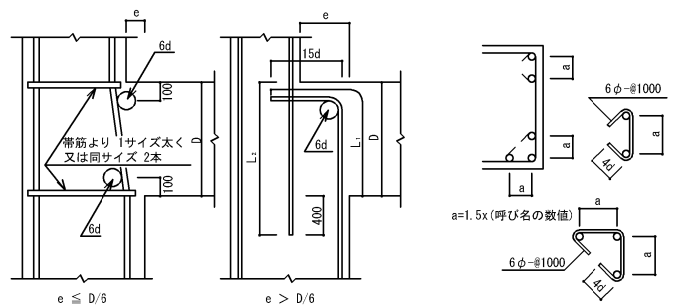
（３）帯筋



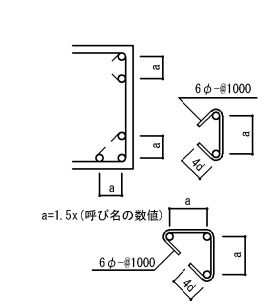
（４）斜め柱・斜め梁



（５）絞り



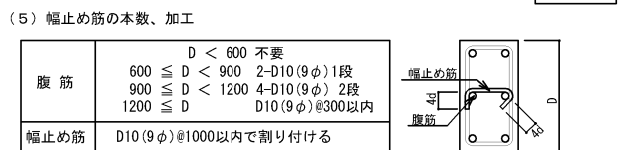
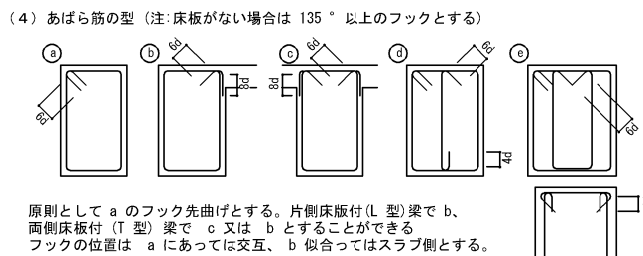
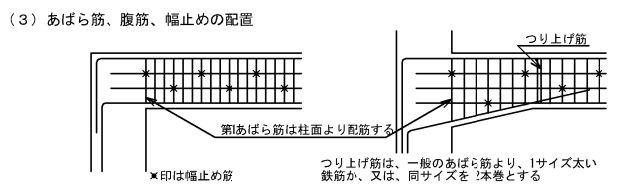
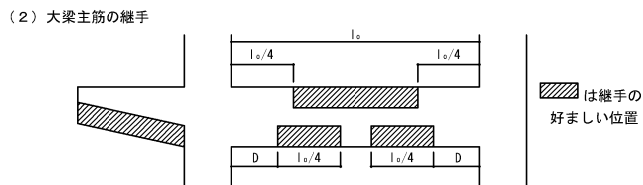
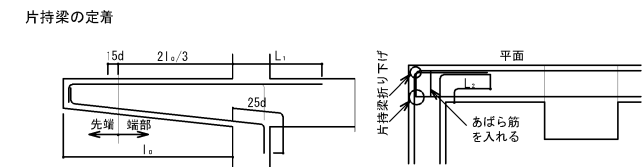
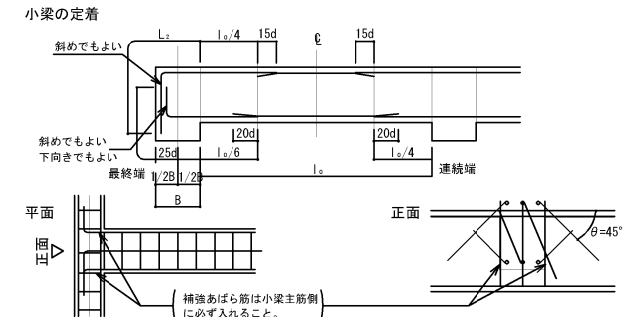
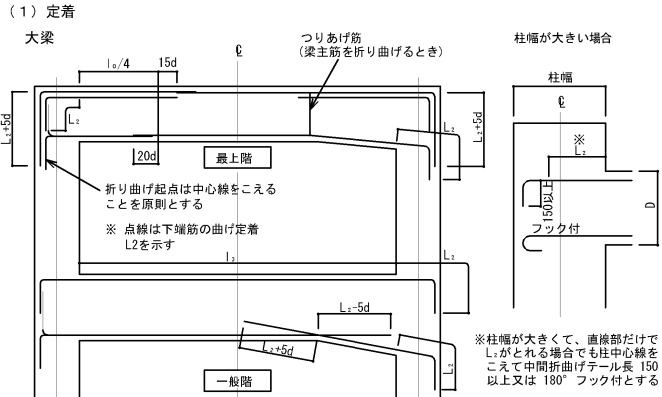
（６）二段筋の保持



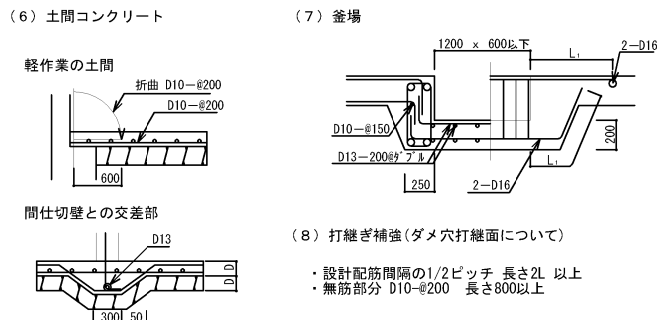
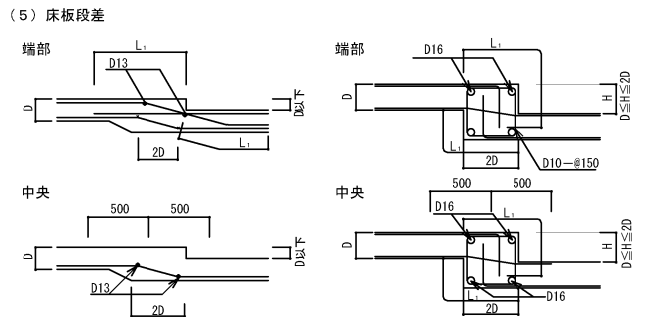
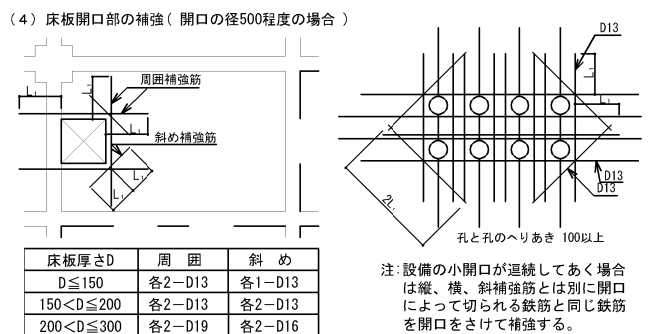
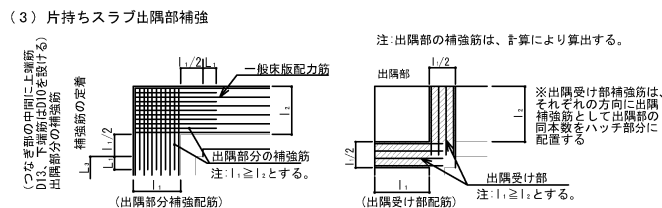
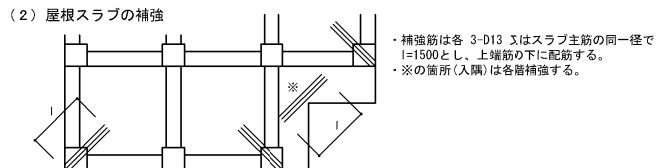
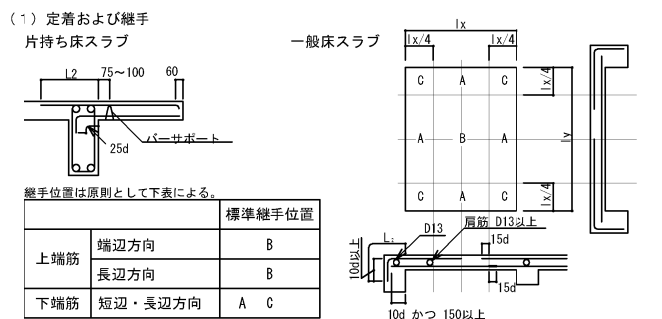
工 事 名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事		
図 番	S-07	図 名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）縮 尺
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第 16988 号 設計者 一級建築士 第 267371 号 曾野孝

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

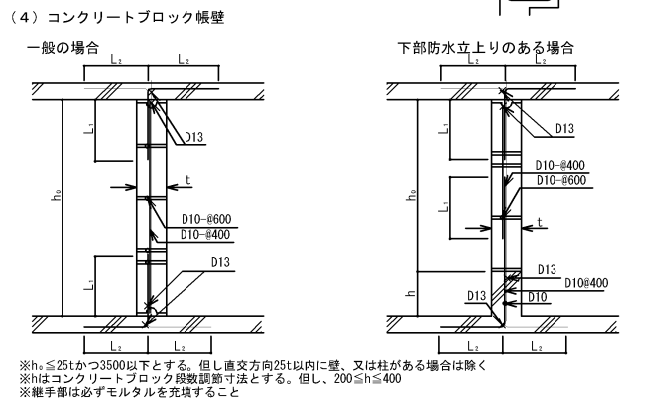
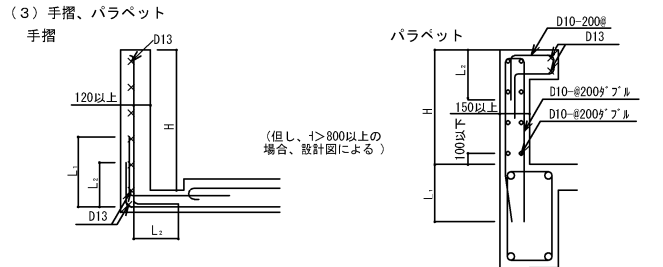
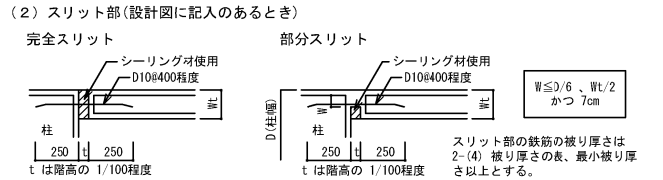
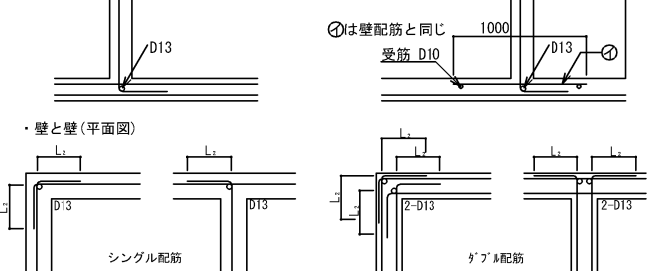
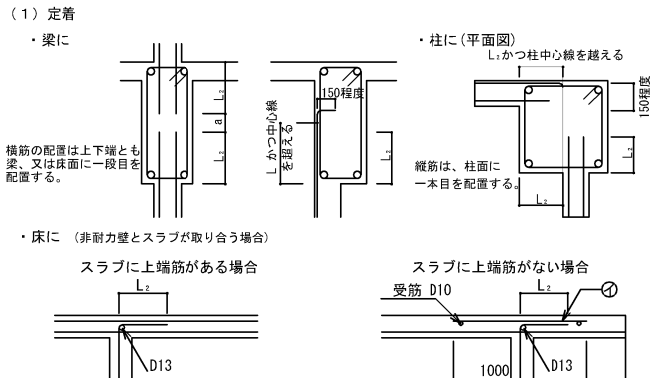
7. 大梁、小梁、片持梁



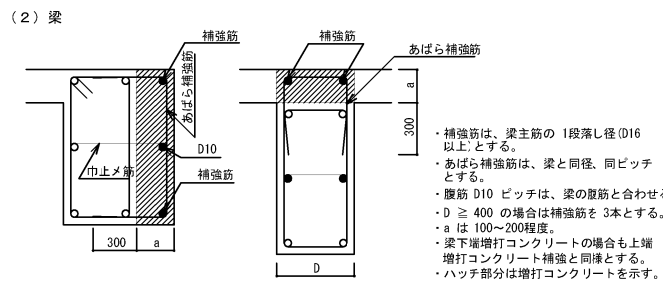
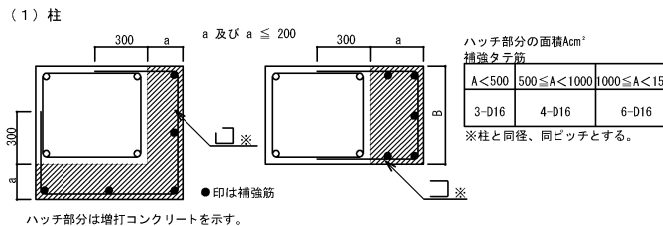
8. 床板



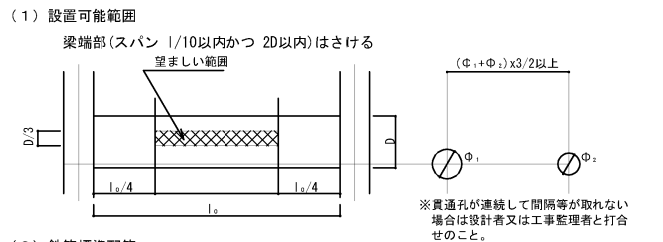
9. 壁



10. 柱、梁増打コンクリート補強



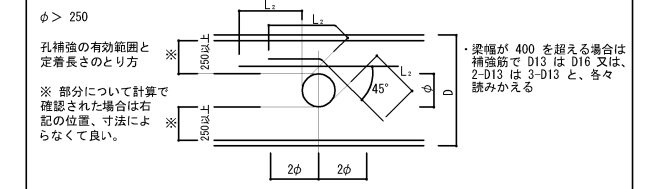
11. 梁貫通孔補強



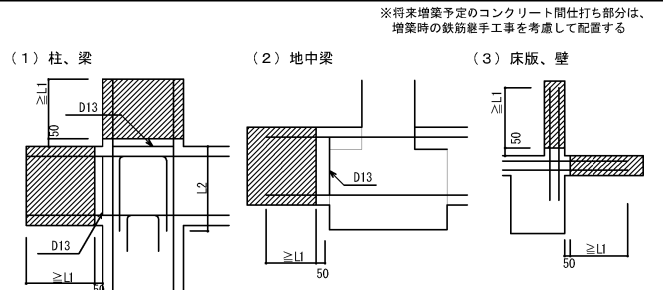
(2) 鉄筋標準配筋

※ 但し、 $\phi \leq D/3$ とする

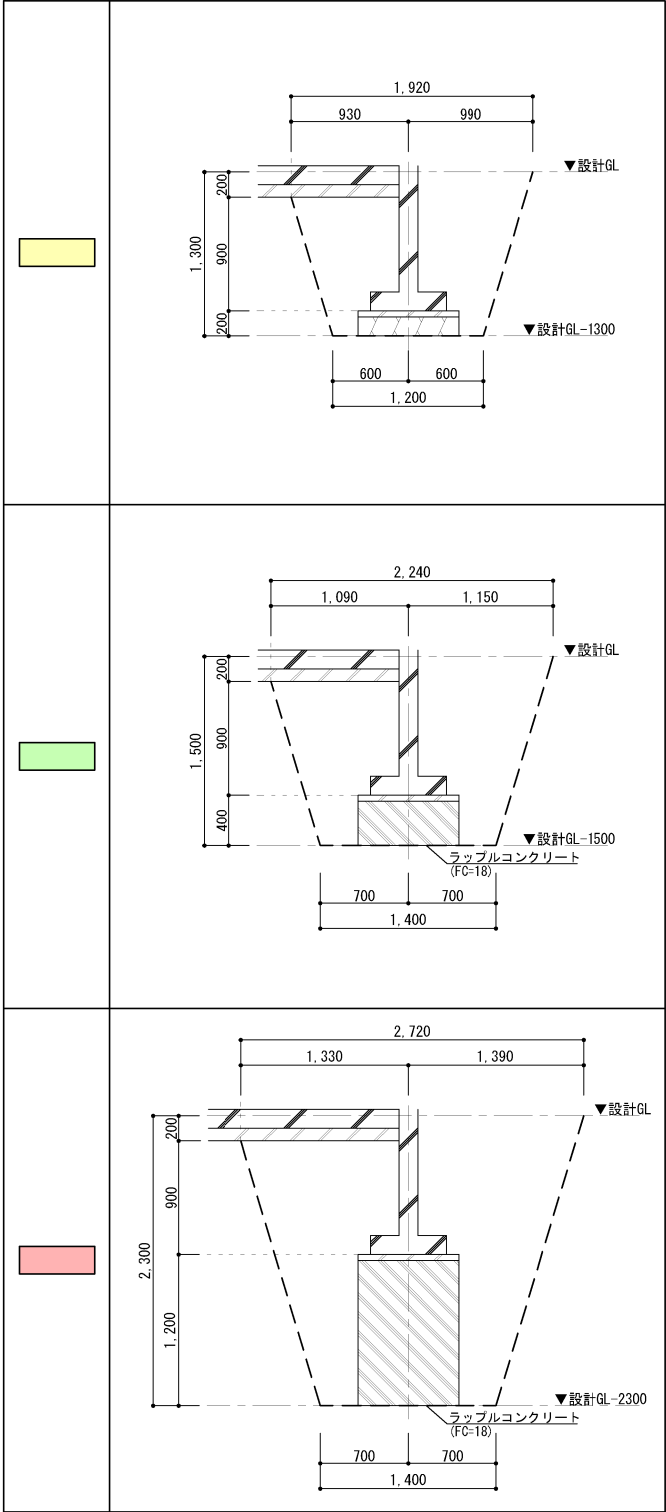
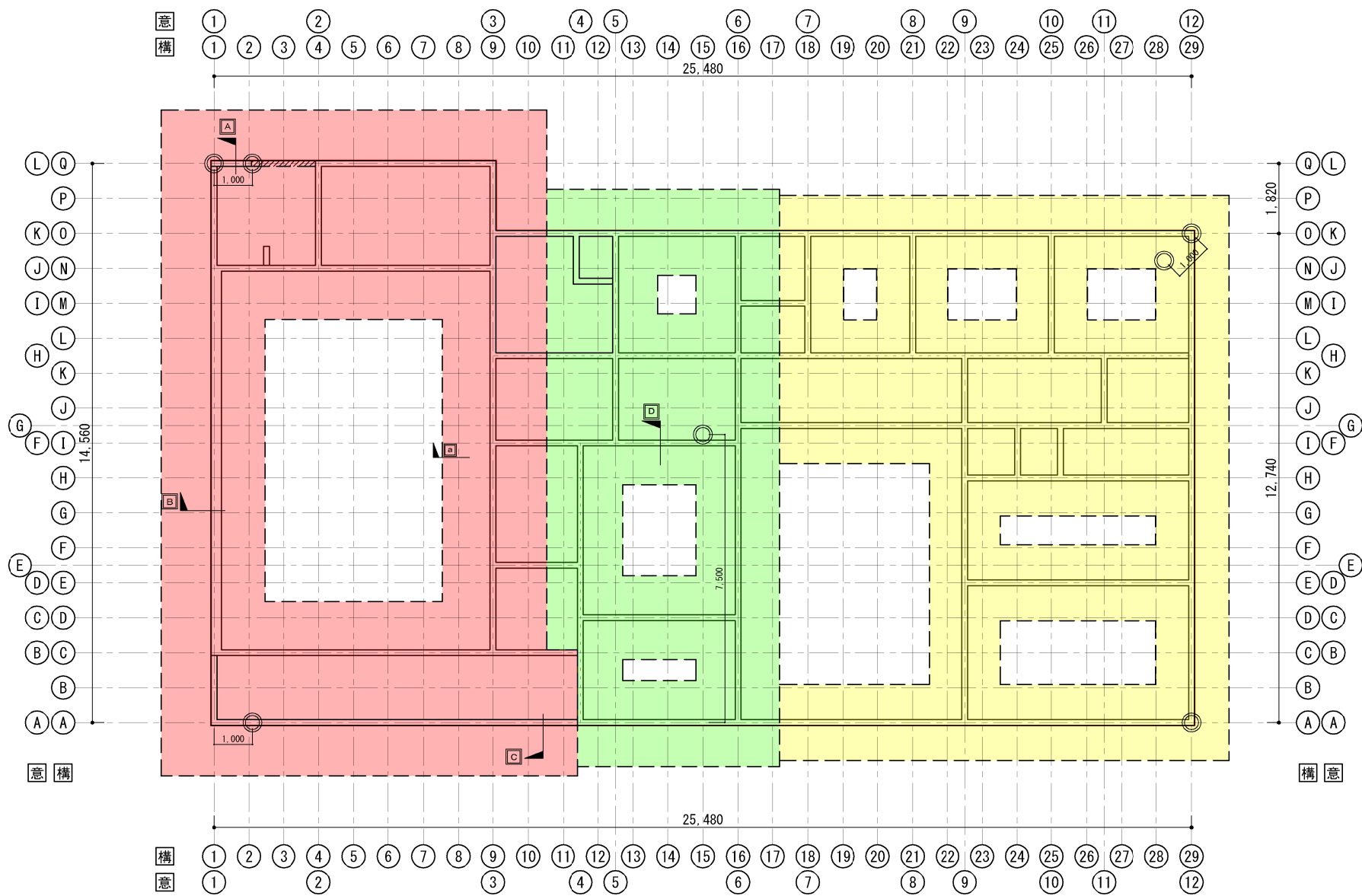
80 $\leq \phi \leq 100$ 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13	100 $< \phi \leq 150$ 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13- $\phi 100$ 横筋 2-(2-D13)	150 $< \phi \leq 250$ 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13- $\phi 100$ 横筋 2-(2-D13) 上下縦筋 ST2-D13
---	---	---



12. 増築予定

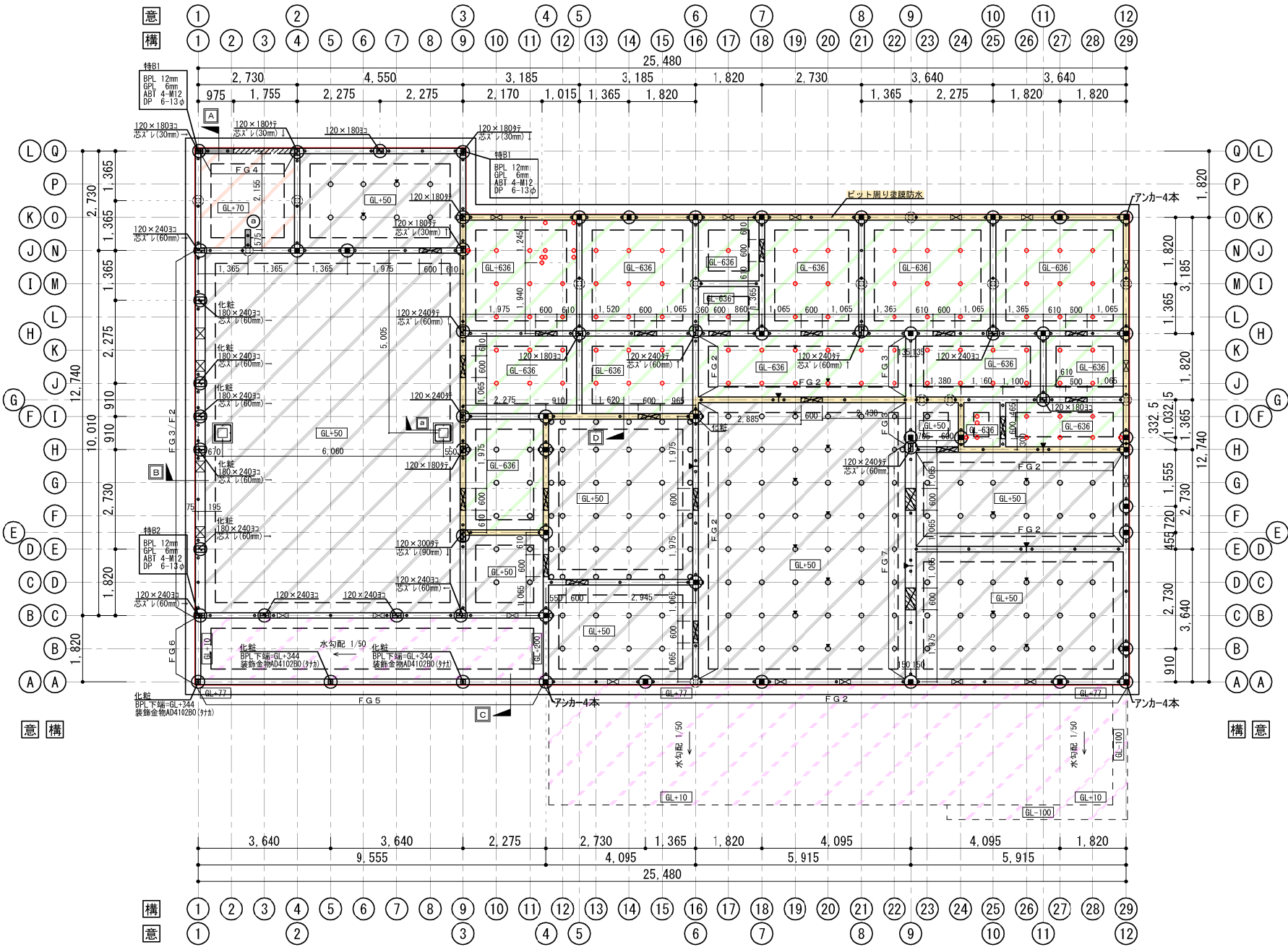


工事名	日野市立まんが館児童館改築建築工事		
図番	S-08	図名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 縮尺
作成	年月日	監理	日野市総務部建築営繕課
訂正	年月日	設計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝



※基礎下およびラップルコンクリート下にて砂礫層を確認すること

工 事 名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事		
図 番	S-09	図 名	ラップルコンクリート伏図 縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝



基礎伏図記号凡例	
	柱脚コネクターの位置を示す
	P柱位置を示す
	土台用アンカーボルト
	人通口・床下換気口（開口部補強）
	鋼製束
	土台・大引継手位置
	地中梁
	土間コンクリート天端GL-636
	土間コンクリート天端GL+70
	土間コンクリート天端は伏図表記による
	増打ち GL+364(均し含む)

土台下に基礎バッキンレ=20mm使用

基礎梁外周面は芯から85mm(75mm+10mm)とする

特記なき土間天端はGL+50とする。

特記なき基礎梁はFG1とする。

特記なきフーチングはF1とする。

・土台用アンカーボルト	(M12 L450)	215本
・コネクタ用アンカーボルト (9本/束付)	(M12 L450)	132本
・装飾金物用アンカーボルト	(SUS M12)	6本

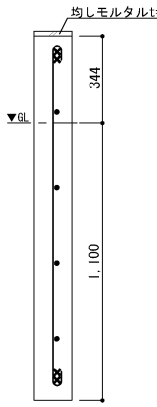
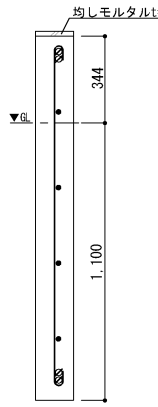
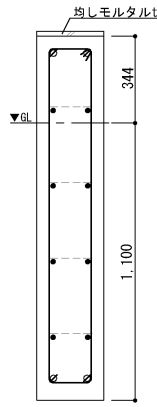
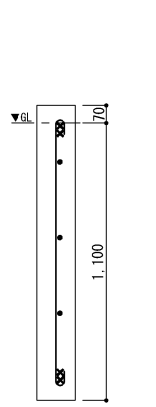
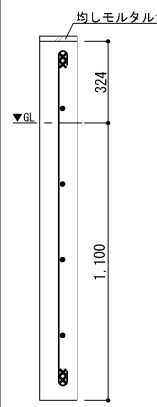
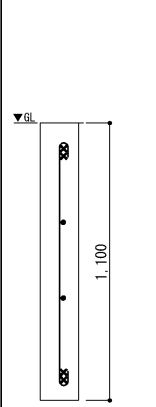
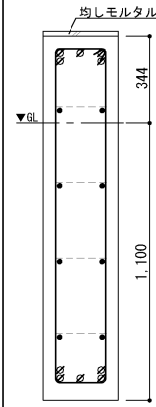
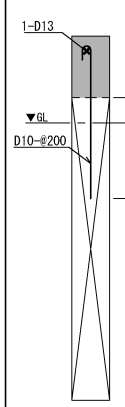
現場送り目コネクタ	7本/束付	個数
目120x240	2-M12	29
	4-M12	3
特殊コネクタ (120x180用)	2-M12	7
特殊コネクタ (120x240用)	2-M12	10
特殊コネクタ (120x300用)	4-M12	1
特殊コネクタ (180x240用)	2-M12	5
特殊コネクタ (目120化粧)	2-M12	1
持B1 (120x180用)	4-M12	2
持B2 (120x240用)	4-M12	1
装飾金物AD4102B0 (9ヶ)	2-SUS M12	3
目鋼製束L345		149
目鋼製束L1020-A		98

※目コネクタは建て方の前日までに必ず基礎にセットして下さい。

※地耐力60KN/m²

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事			
図 番	S-10	図 名	基礎伏図	縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成 年 月 日	監理 日野市総務部建築営繕課			
訂 正 年 月 日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			

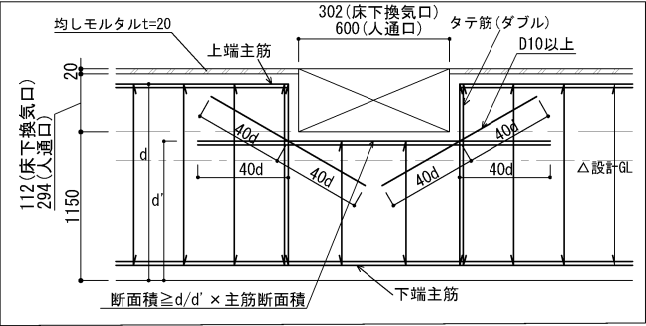
基礎梁リスト

記号	F61	F62	F63	F64	F65	F66	F67	立上り増打ち	
b×D	150 (b) × 1444 (D)	150 (b) × 1444 (D)	270 (b) × 1444 (D)	150 (b) × 1170 (D)	150 (b) × 1424 (D)	150 (b) × 1100 (D)	300 (b) × 1444 (D)	巾150	
断面									
	上端主筋	2-D13	2-D16	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13	5-D16	
	下端主筋	2-D13	2-D16	2-D16	2-D13	2-D13	2-D13	5-D16	
	STP	D10-@200	D10-@200	□D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200	□D10-@200	
	腹筋	4-D10	4-D10	8-D10	3-D10	4-D10	2-D10	8-D10	
巾止め筋			D10-@1000				D10-@1000		

フーチングリスト

F 1	F 2
巾=700	巾=820

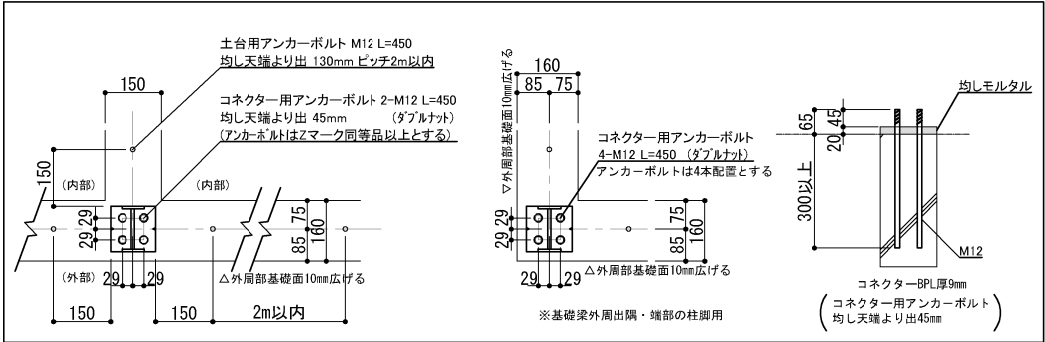
【人通口・床下換気口基礎配筋図】(F61, F62, F67)



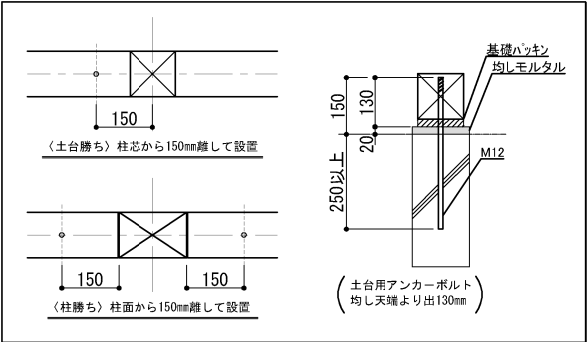
土間リスト

土間	長辺・短辺方向 D10@150

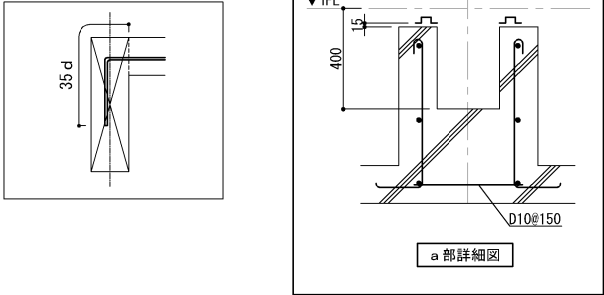
【アンカーボルト配置図】



【土台用アンカーボルト設置位置】

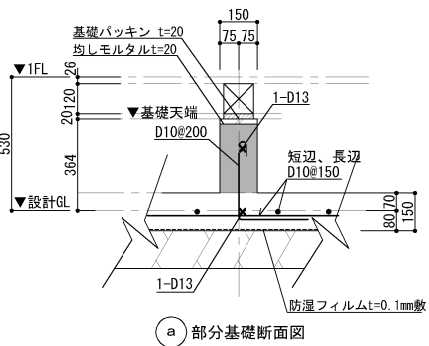
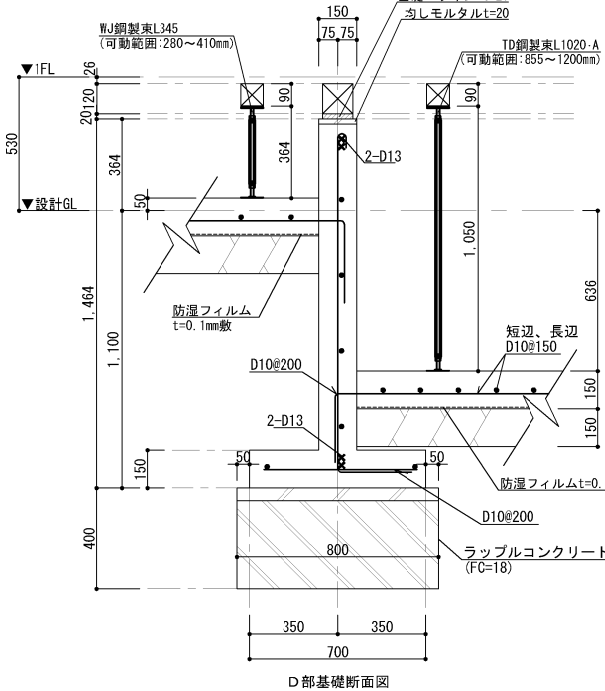
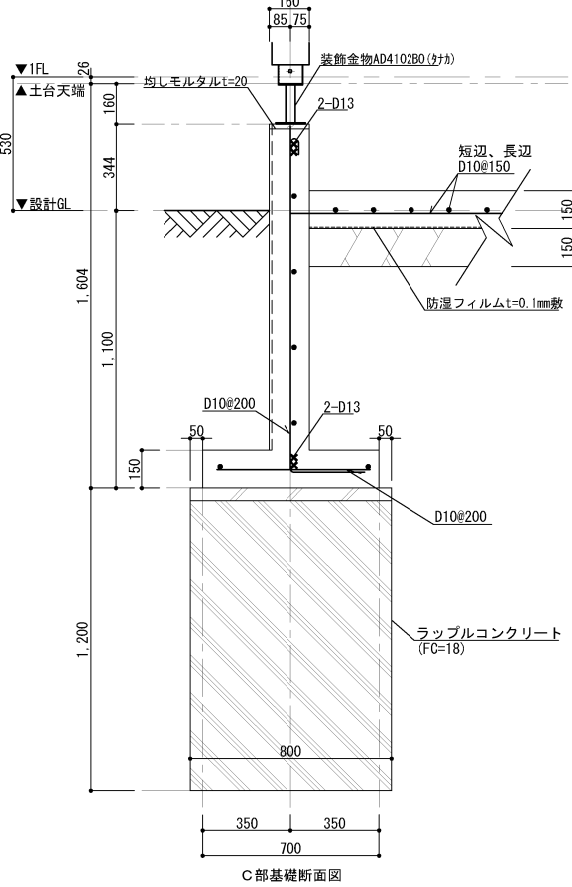
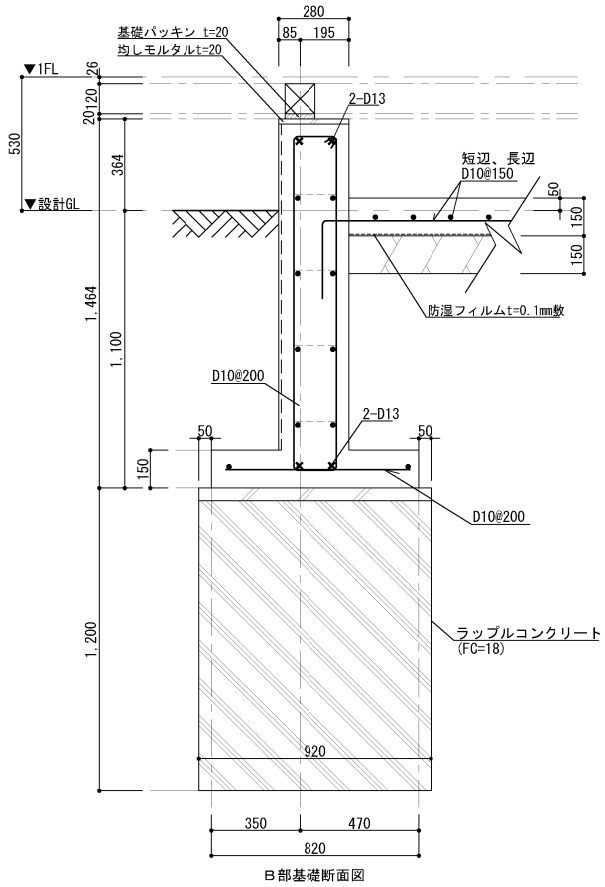
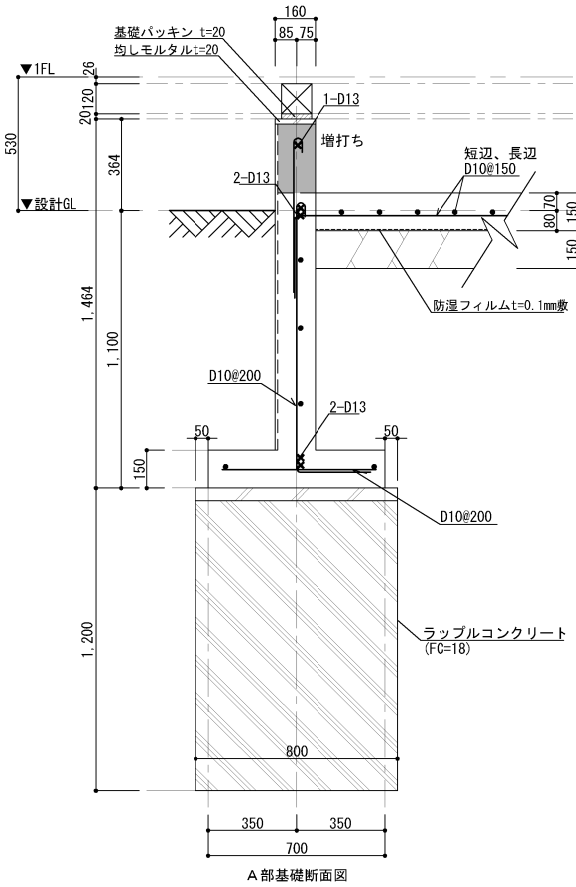


【スラブと梁の定着】

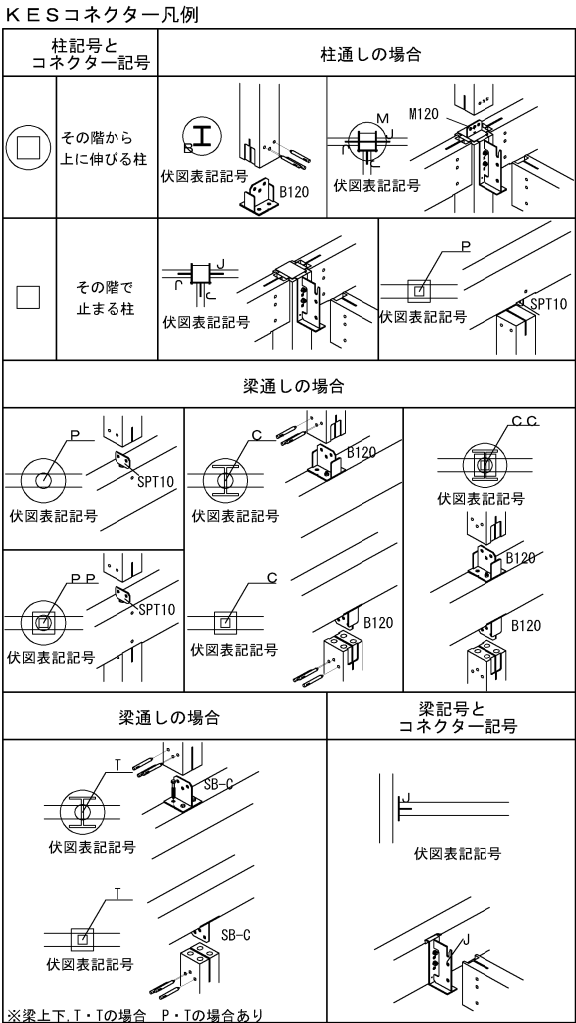
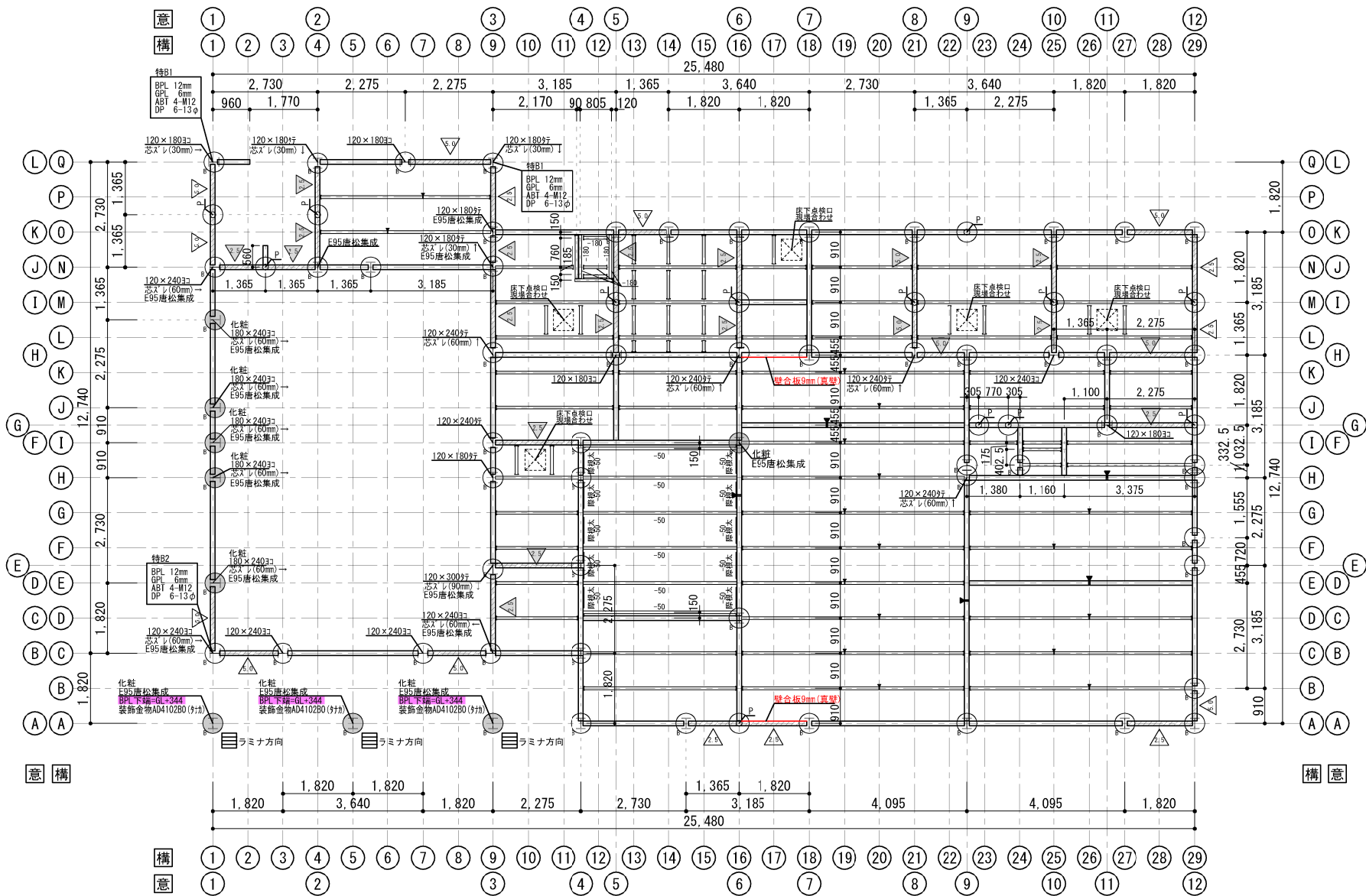


SD295
(D16以下)
Fc=21 N/mm²
地耐力=60kN/m²

※外周部基礎面は
10mm広げる。



工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事		
図 番	S-11	図 名	基礎断面詳細図
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝

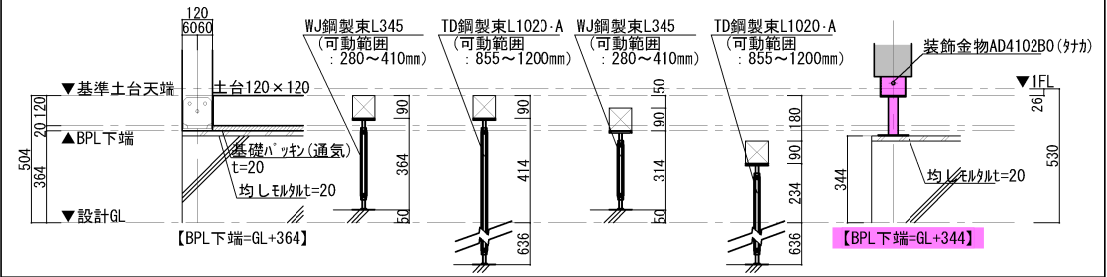


耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		<真壁側> 2.5倍	構造用ハネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	5.0倍	<真壁側> 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	2.5倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
	2.5倍	<真壁側> 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付3Cmm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

柱脚バール詳細図 A1=1:15 A3=1:30



非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

1F階高: 3618.5

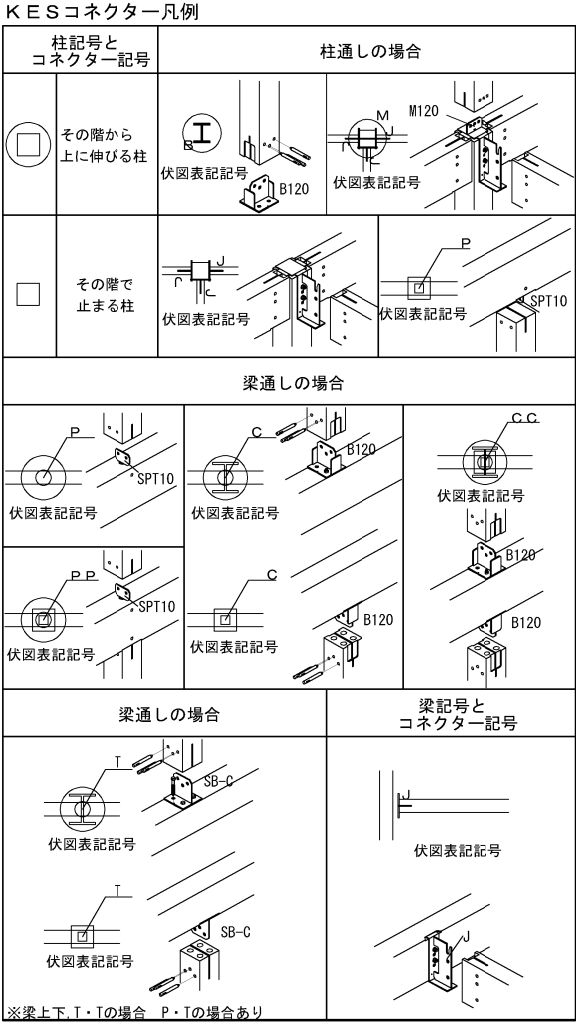
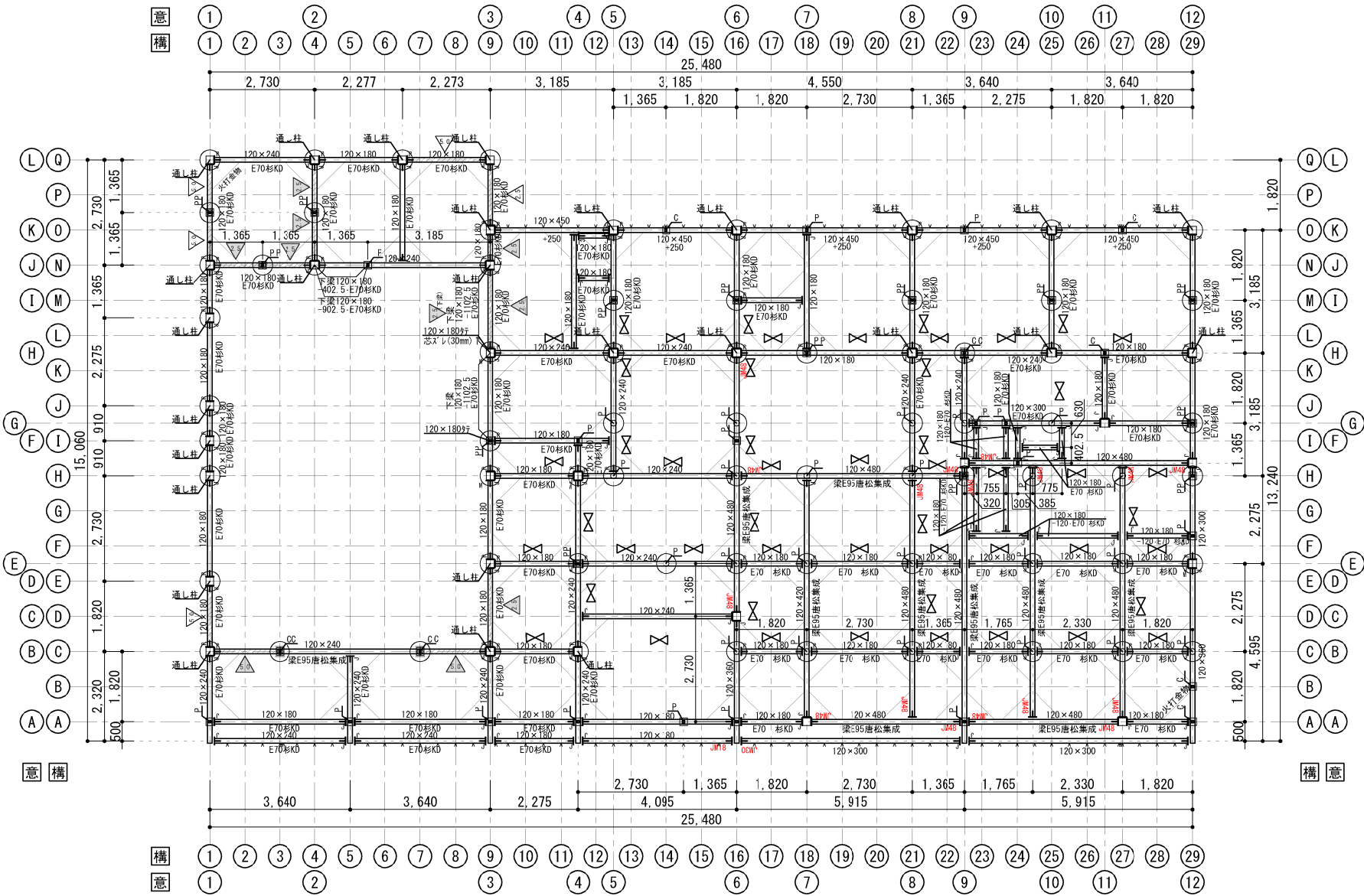
根太レス
基礎バツキン(通気) 厚さ20mm
床合板91C×1820×24mm CN75@150以下 川型
壁合板910×1820×9mm

※外周部は火山性ガラス質複層板を使用
(参考:ダイライトMS)

KES120仕様

土台は120×120 (E70桧製材)
大引きは90×90 (E70桧製材)
際根太は45×120 (杉製材)
指定なき柱は120×120 (欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき平柱の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
▲印は土台・大引継手位置
○は化粧 (唐松集成材対称異等級E95-F270)

工 事 名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事			
図 番	S-12	図 名	土台伏図	縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成	年 月 日	監理	日野市総務部建築営繕課	
訂 正	年 月 日	設計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝	



耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		<真壁側> 2.5倍	構造用ハ 杉 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	5.0倍	<真壁側> 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハ 杉 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	2.5倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
	2.5倍	<真壁側> 2.5倍(合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハ 杉 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付3Cmm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

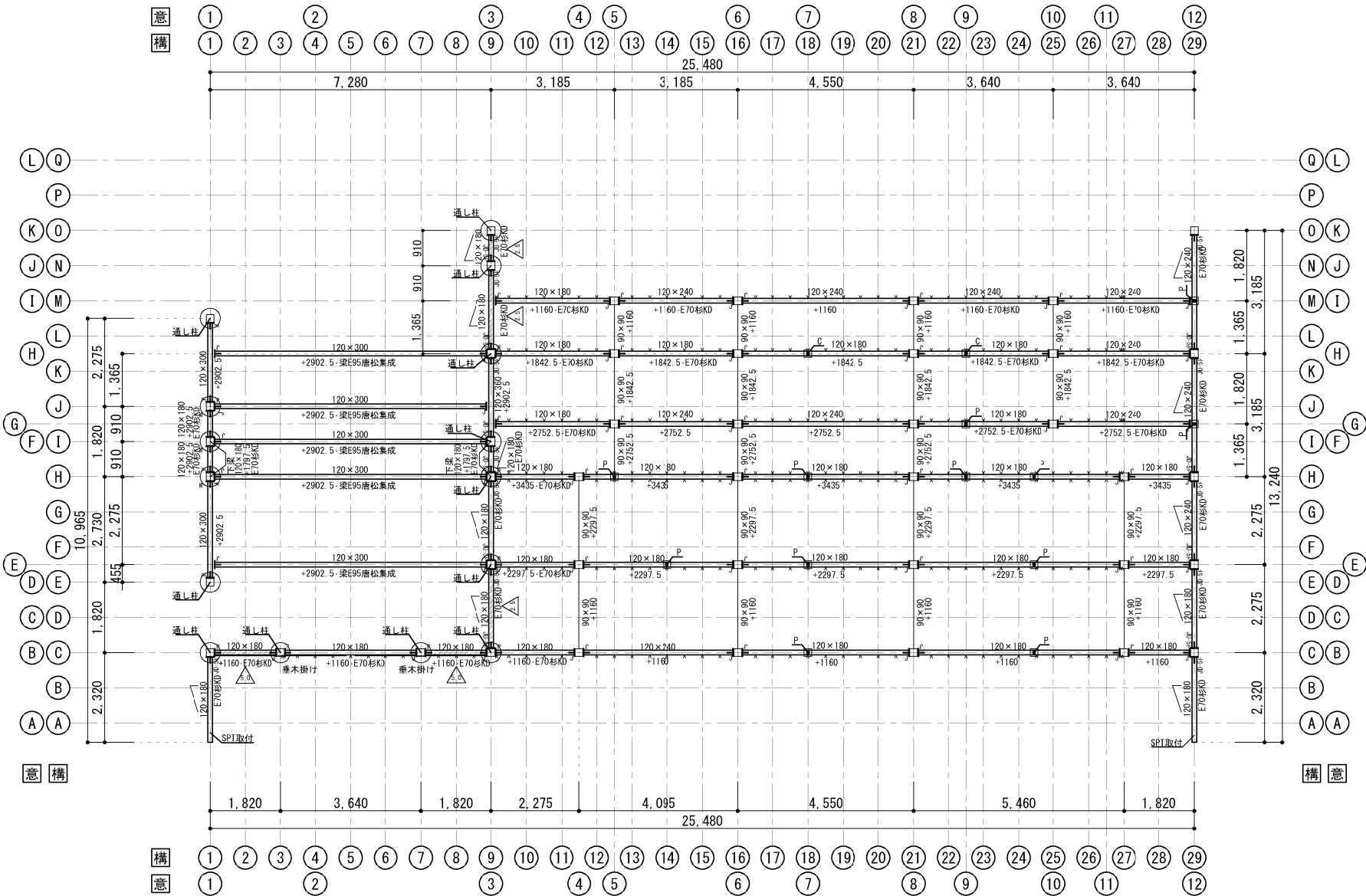
1F階高 : 3618.5

壁合板910×1820×9mm
※外周部は火山性ガラス質複層板を使用
(参考:ダイライトMS)

KES120仕様

指定なき束は120×120(欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき平柱の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
火打金物はビス留め火打ち
☒ は雲筋交い30×90(杉製材) (たすきかけ) 3-CN75留め

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事			
図 番	S-13	図 名	1階小屋伏図(1)	縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成	年 月 日	監理	日野市総務部建築営繕課	
訂 正	年 月 日	設計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝	



耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		<真壁側> 2.5倍	構造用ハ 材 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	5.0倍	<真壁側> 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハ 材 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	2.5倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
	2.5倍	<真壁側> 2.5倍(合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用ハ 材 (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付3Cmm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号		柱通しの場合	
	その階から上に伸びる柱		
	その階で止まる柱		
梁通しの場合			
	伏図表記記号		伏図表記記号
	伏図表記記号		伏図表記記号
梁通しの場合		梁記号とコネクター記号	
	伏図表記記号		伏図表記記号
	伏図表記記号		伏図表記記号
登り梁記号とコネクター記号			
	伏図表記記号		伏図表記記号
JD: 下りの金物 JU: 登りの金物 O: 勾配(寸)			

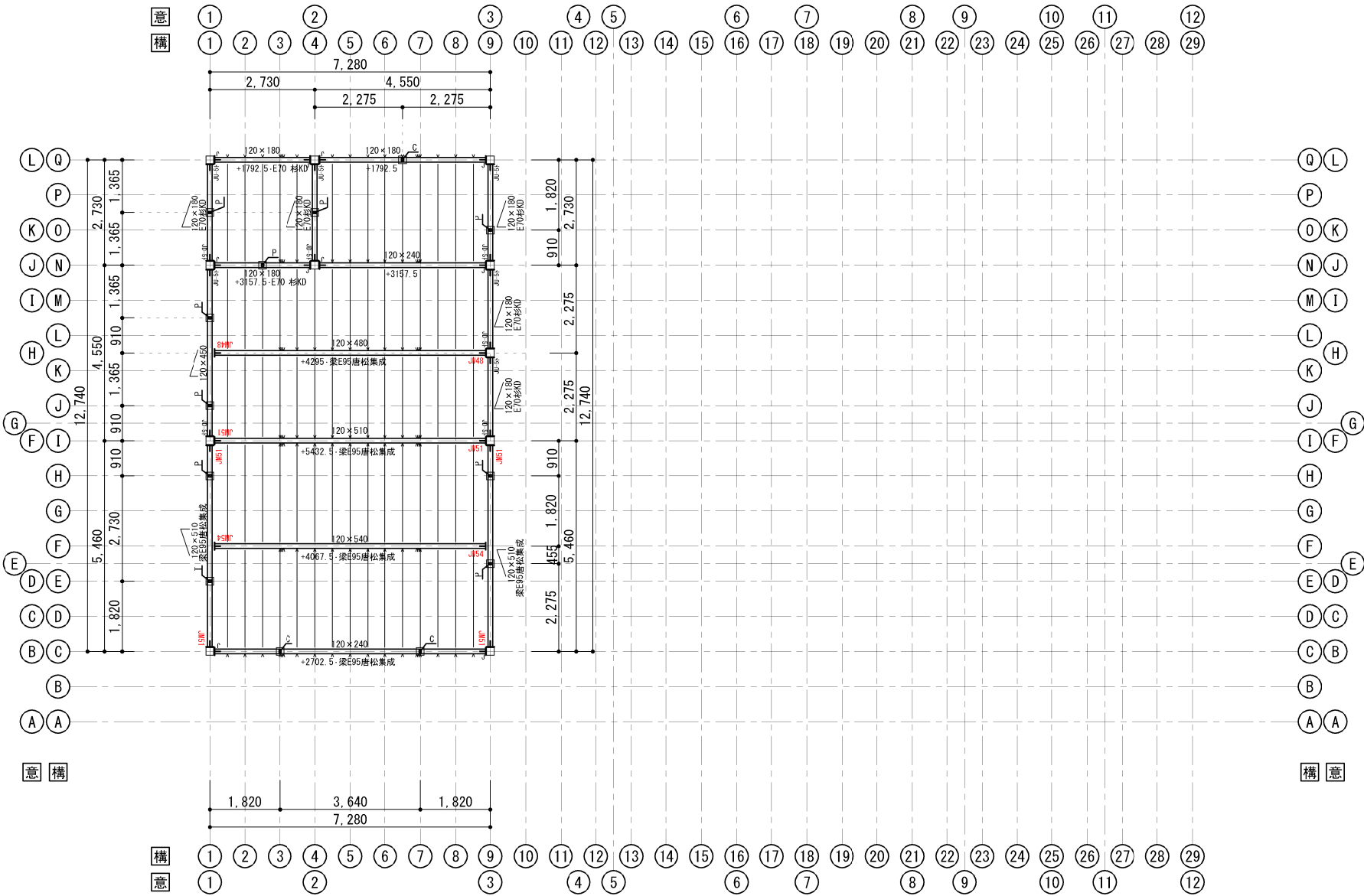
1F階高 : 3618.5

壁合板910×1820×9mm
※外周部は火山性ガラス質複層板を使用
(参考:ダイライトMS)

KES120仕様

指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
振れ止めは90×90(E70杉製材)
垂木掛けは45×120(杉製材)
は登り梁を示す
+○○は桁梁天端からの高さを示す

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事		
図 番	S-14	図 名	1階小屋伏図(2)
縮 尺	A1 1:75 A3 1:150	作 成	監理 日野市総務部建築営繕課
訂 正	年 月 日	設計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東 京 都 知 事 第 1 6 9 8 8 号 設計者 一級建築士 第 2 6 7 3 7 1 号 曾 野 孝

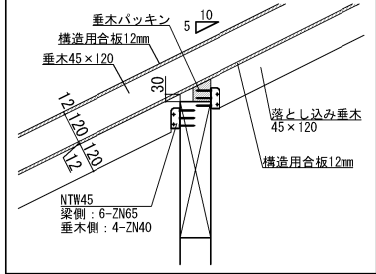


耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		<真壁側> 2.5倍	構造用パネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	5.0倍	<真壁側> 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	2.5倍	<大壁側> 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50) @100mm以下 中通り N50 (又はSF50) @200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
	2.5倍	<真壁側> 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネ (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付3Cmm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらも対応可とする。

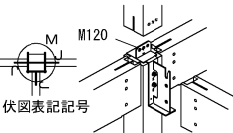
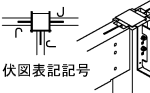
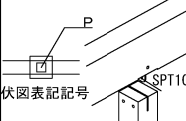
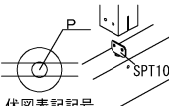
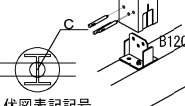
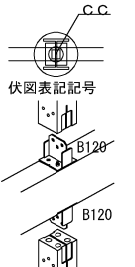
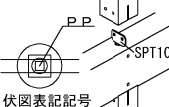
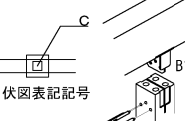
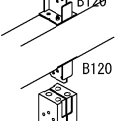
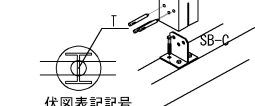
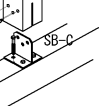
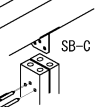
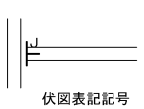
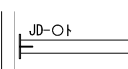
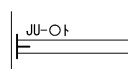
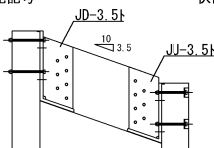
二重垂木詳細図 A1=1:15 A3=1:30



非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石膏ボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

KESコネクター凡例

柱記号とコネクター記号		柱通しの場合	
	その階から上に伸びる柱	 伏図表記記号	 伏図表記記号
	その階で止まる柱	 伏図表記記号	 伏図表記記号
梁通しの場合			
 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	
 伏図表記記号	 伏図表記記号	 伏図表記記号	
梁通しの場合		梁記号とコネクター記号	
 伏図表記記号			
 伏図表記記号			
※梁上下、I・Iの場合 P・Iの場合あり		 伏図表記記号	
登り梁記号とコネクター記号			
 伏図表記記号		 伏図表記記号	
			
		JD: 下りの金物 JU: 登りの金物 O: 勾配(寸)	

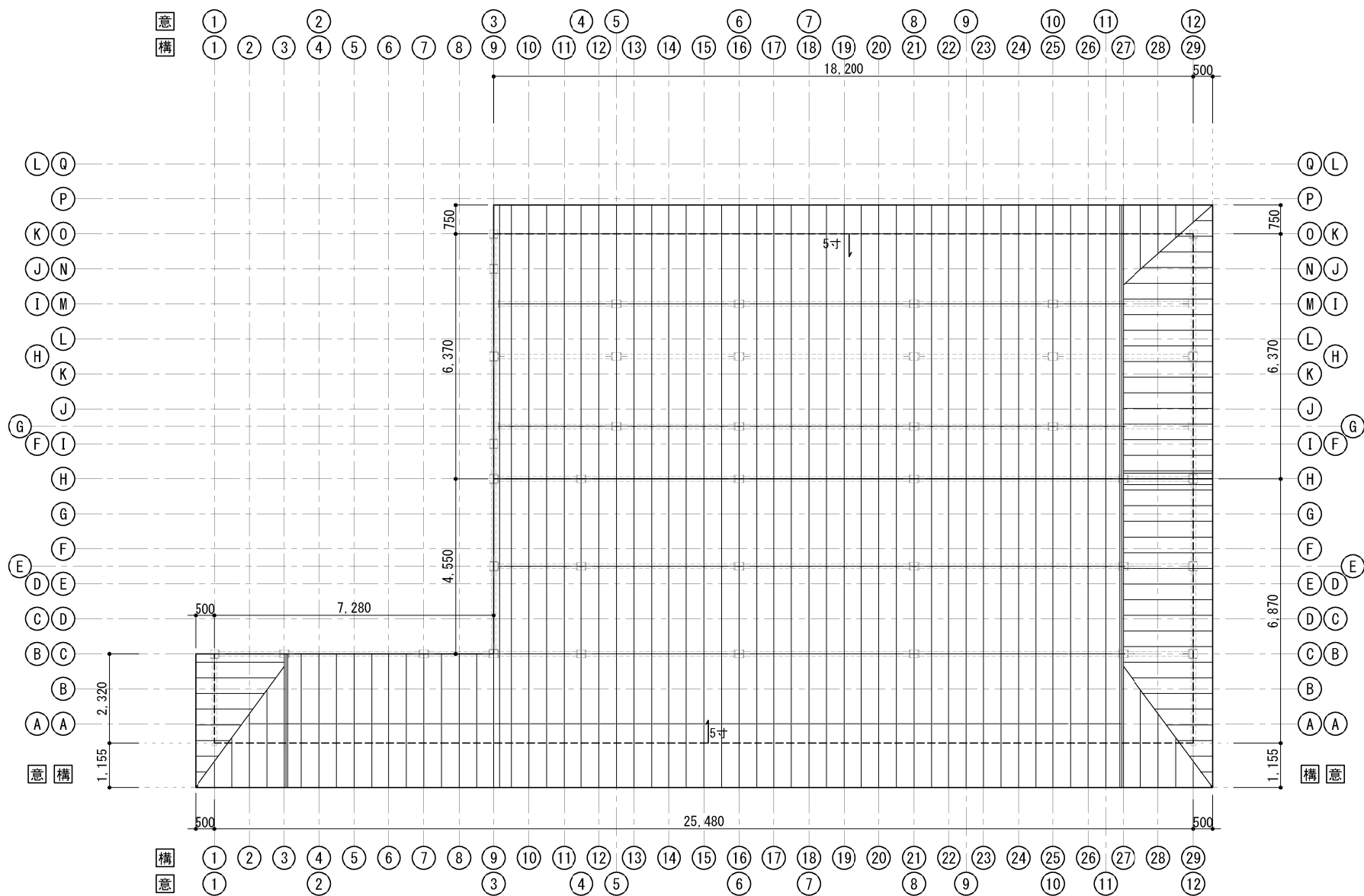
1F階高: 3618.5

1層目野地合板910×1820×12mm
CN50@150以下 川型
二重垂木

KES120仕様

指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
落とし込み垂木は45×120@455(杉製材)
は登り梁を示す
+○○は桁梁天端からの高さを示す

工 事 名		日野市立まanganじ児童館改築建築工事				
図 番	S-15	図 名	1階小屋伏図(3)		縮 尺	A1 1:75 A3 1:150
作 成		監 理	日野市総務部建築営繕課			
年 月 日						
訂 正		設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			
年 月 日						



1F階高 : 3618.5

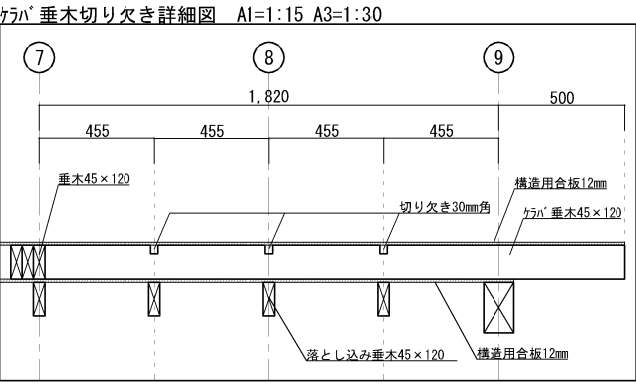
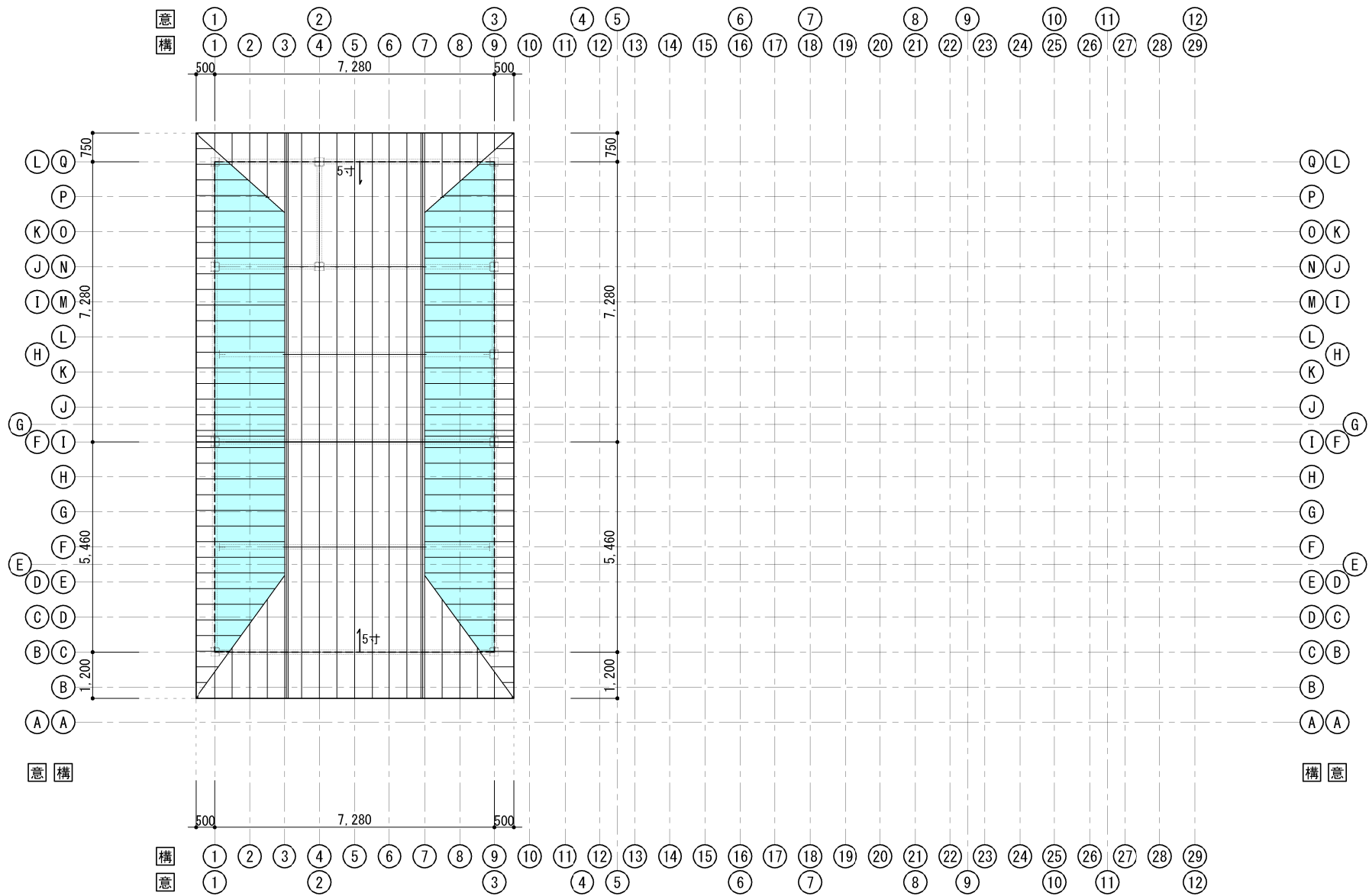
野地合板910×1820×12mm

CN50@150以下 川型

KES120仕様

垂木は45×120@455 (杉製材)
ケラハ 垂木45×120 (杉製材)は軒先から@455
ケラハ 補強材は120×120 (杉製材)

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事			
図 番	S-16	図 名	1階母屋伏図(1)	縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成 年 月 日	監理 日野市総務部建築営繕課			
訂 正 年 月 日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			



1F階高：3618.5

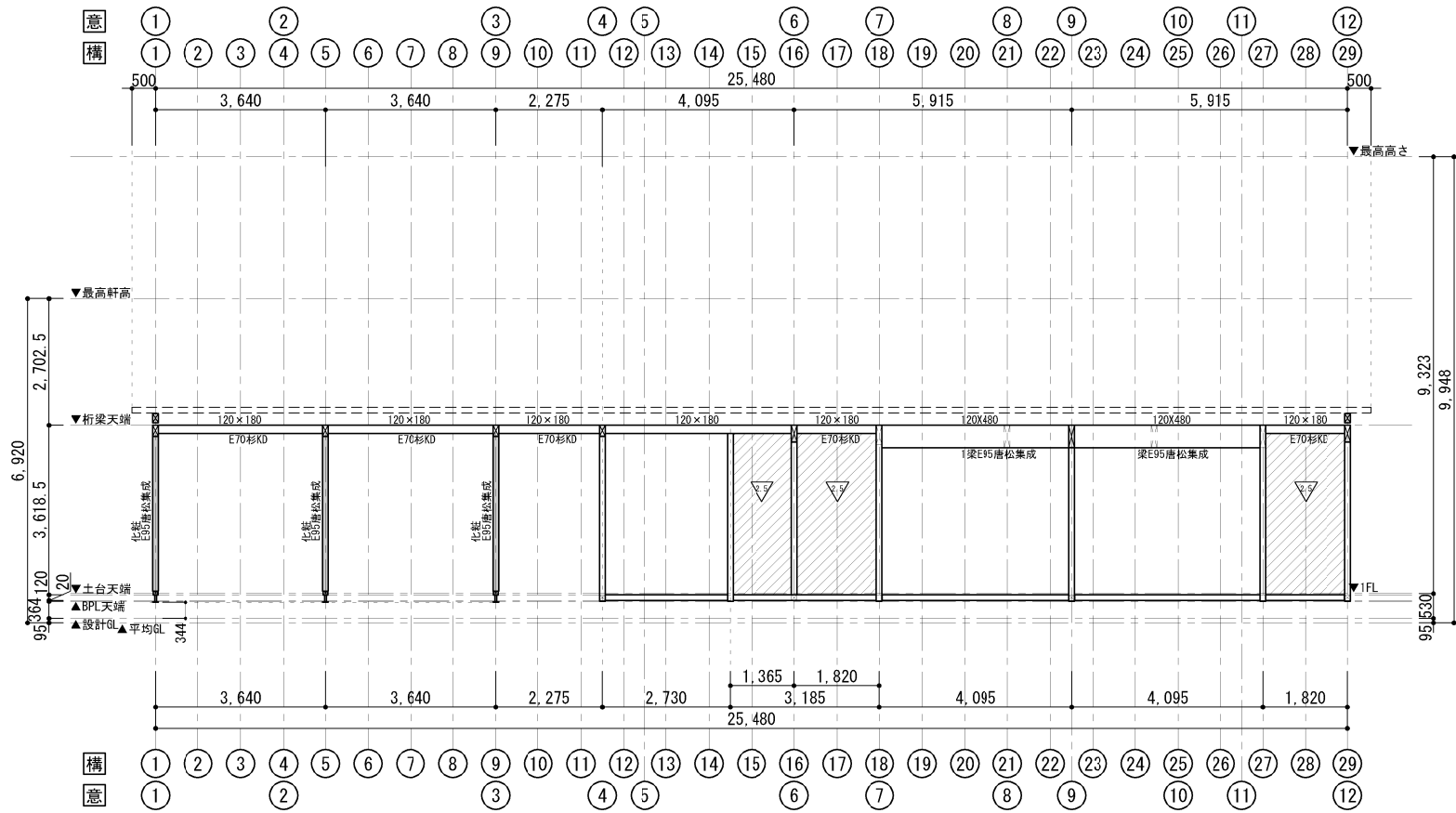
2層目野地合板910×1820×12mm
CN50@150以下 川型

二重垂木

KES120仕様

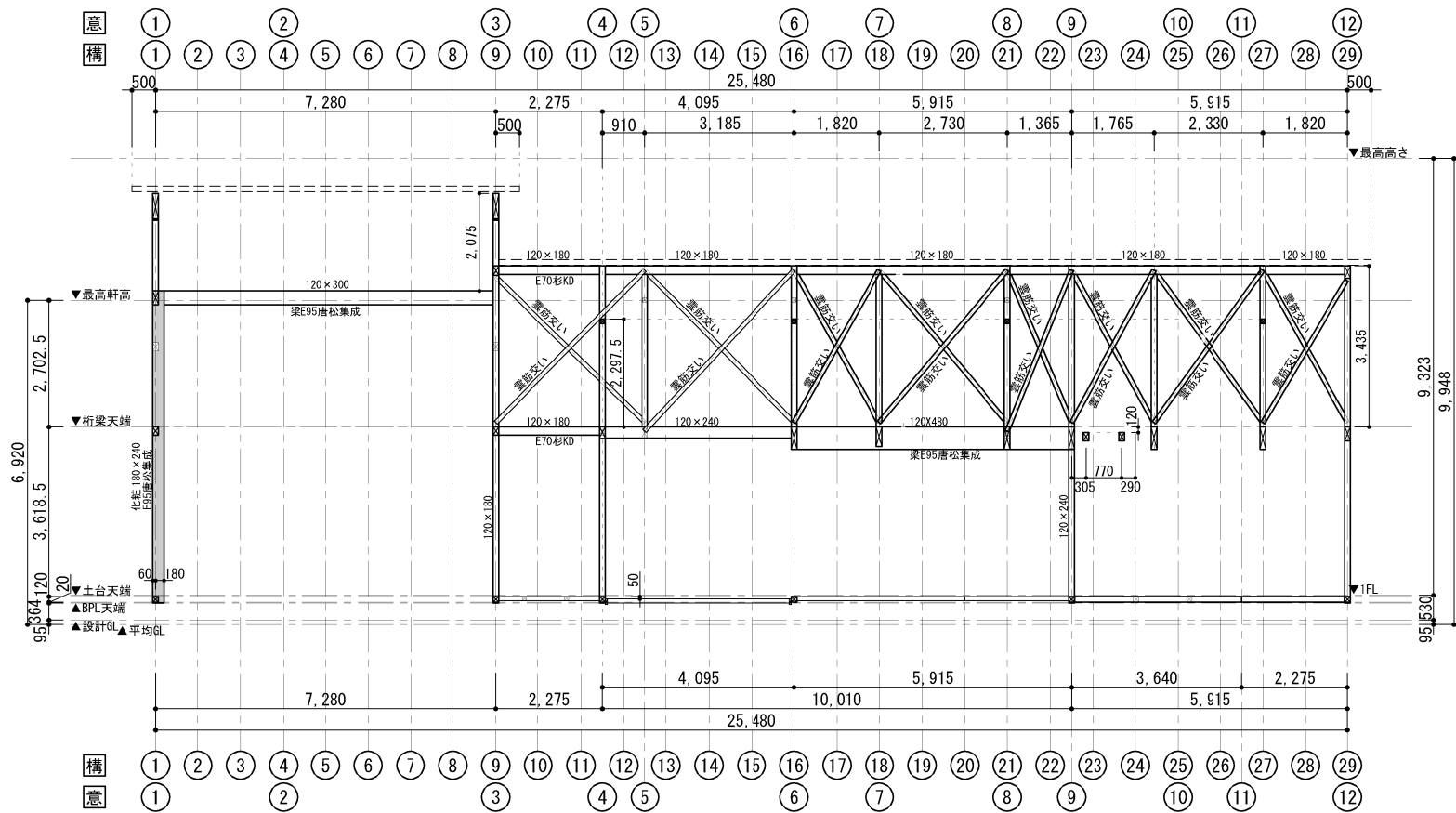
垂木は45×120@455(杉製材)
ケラハ 垂木45×120(杉製材)は軒先から@455
ケラハ 補強材は120×120(杉製材)
の範囲のケラハ 垂木は垂木天端から
30mm角@455で通気用の切り欠きを設ける

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事				
図 番	S-17	図 名	1階母屋伏図(2)	縮 尺	A1 1:75 A3 1:150
作 成 年 月 日	監理 日野市総務部建築営繕課				
訂 正 年 月 日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝				



構造軸組図 (A通り)

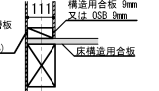
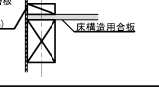
意匠番付 (A通り)



構造軸組図 (H通り)

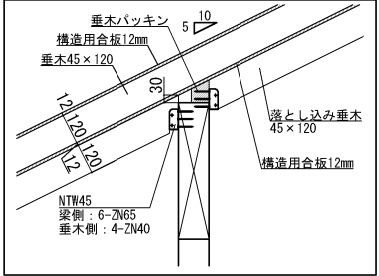
意匠番付 (E+2275通り)

耐力壁凡例  は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
	5.0倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		＜真壁側＞ 2.5倍	構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	5.0倍	＜真壁側＞ 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
	2.5倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
	2.5倍	＜真壁側＞ 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

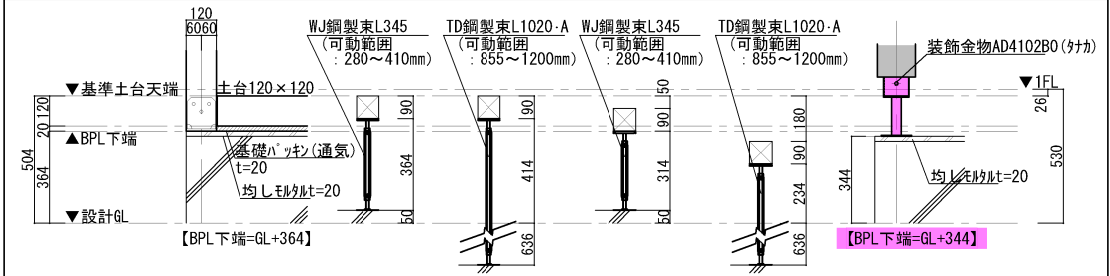
二重垂木詳細図 A1=1:15 A3=1:30



非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石こうボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

柱脚レベル詳細図 A1=1:15 A3=1:30



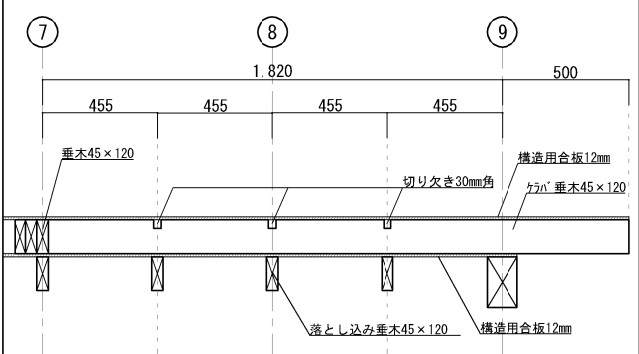
1F階高: 3618.5

根太レス	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
基礎パッキン(通気) 厚さ20mm	1層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
床合板910×1820×24mm CN75@150以下 川型	2層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
壁合板910×1820×9mm ※外周部は火山性ガラス質複層板を使用 (参考:ダイライトMS)	二重垂木

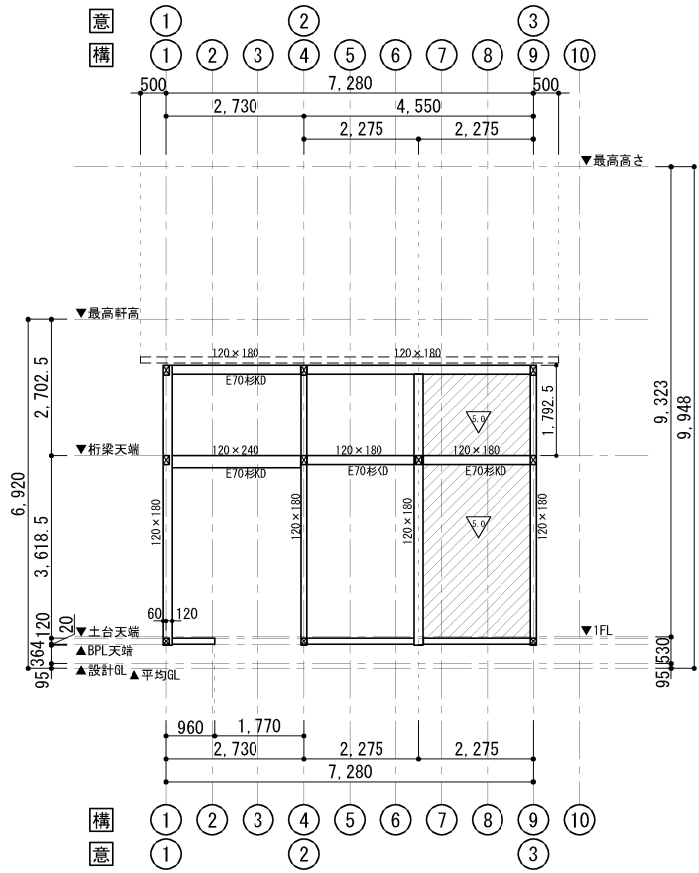
KES120仕様

土台は120×120 (E70桧製材)
大引きは90×90 (E70桧製材)
際根太は45×120 (杉製材)
指定なき柱は120×120 (欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき束は120×120 (欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき平柱の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
は化粧 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
火打金物はビス留め火打ち
雲筋交いは30×90 (杉製材) (たすきかけ) 3-CN75留め
振れ止めは90×90 (E70杉製材)
垂木掛けは45×120 (杉製材)
落とし込み垂木は45×120@455 (杉製材)
垂木は45×120@455 (杉製材)
ケバ垂木45×120 (杉製材)は軒先から@455
ケバ補強材は120×120 (杉製材)
二重垂木のケバ垂木は垂木天端から
30mm角@455で通気用の切り欠きを設ける

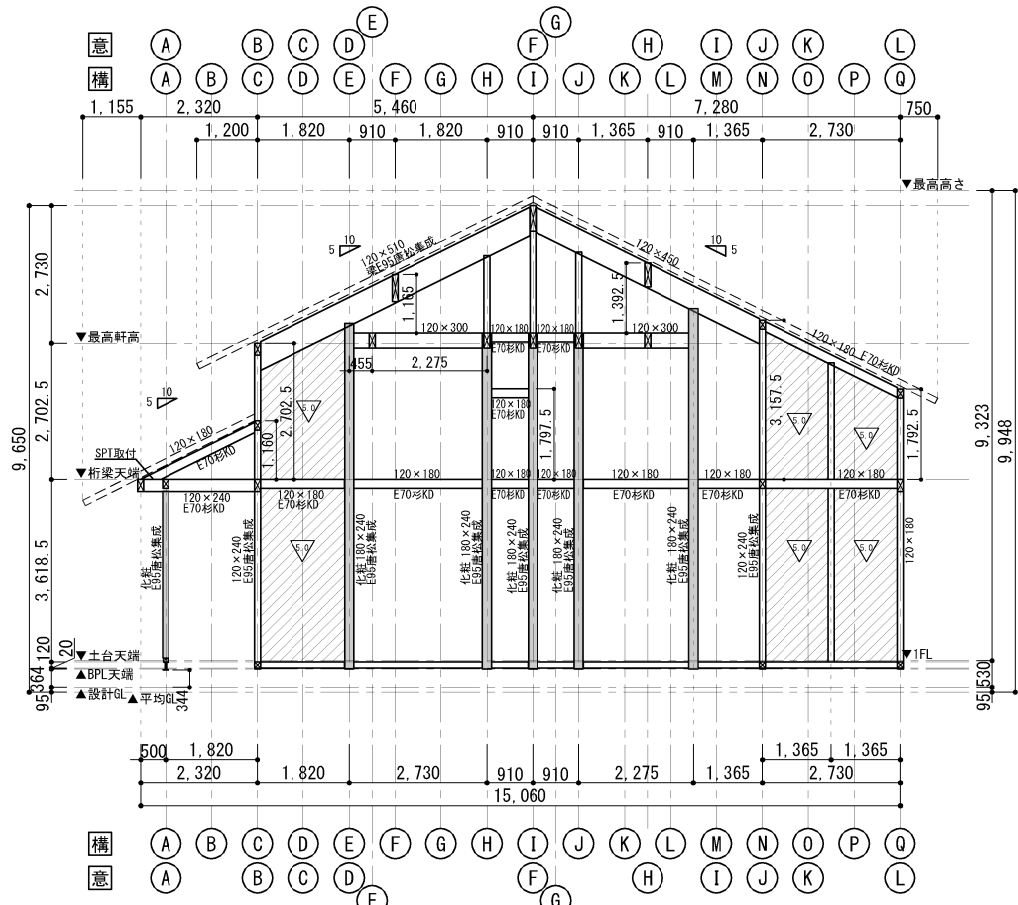
ケバ垂木切り欠き詳細図 A1=1:15 A3=1:30



工事名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事			
図番	S-18	図名	軸組図 (1)	縮尺 A1 1:75 A3 1:150
作成 年月日	監理 日野市総務部建築営繕課			
訂正 年月日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			



構造軸組図 (Q通り) 意匠番付 (L通り)



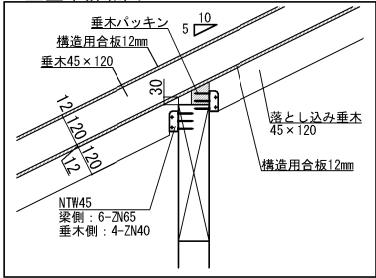
構造軸組図 (I通り) 意匠番付 (I通り)

耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
5.0	5.0倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		＜真壁側＞ 2.5倍	構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
5.0	5.0倍	＜真壁側＞ 2.5倍 ※両面真壁	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
2.5	2.5倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
2.5	2.5倍	＜真壁側＞ 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

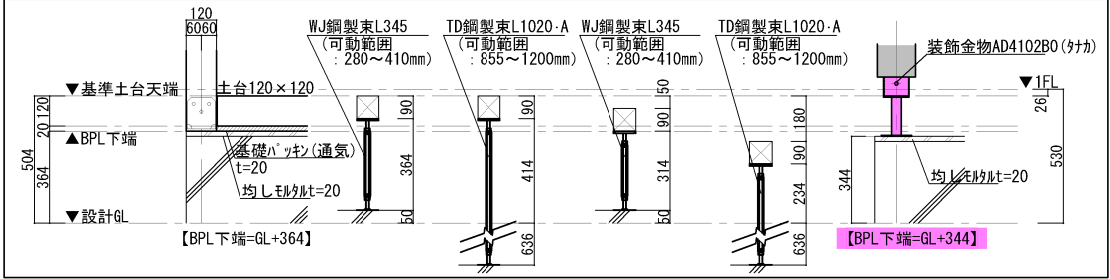
二重垂木詳細図 A1=1:15 A3=1:30



非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石こうボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

柱脚レベル詳細図 A1=1:15 A3=1:30



1F階高: 3618.5

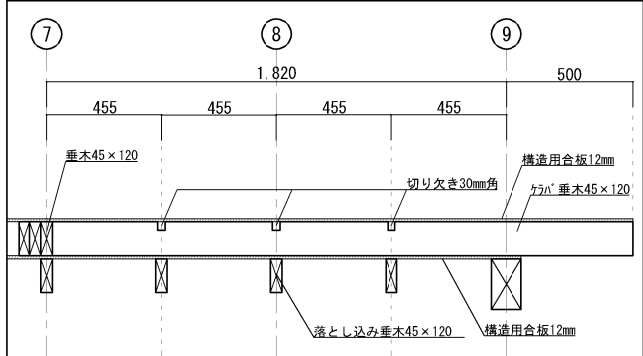
根太レス	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
基礎パッキン(通気) 厚さ20mm	1層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
床合板910×1820×24mm CN75@150以下 川型	2層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
壁合板910×1820×9mm	二重垂木

※外周部は火山性ガラス質複層板を使用
(参考:ダイライトMS)

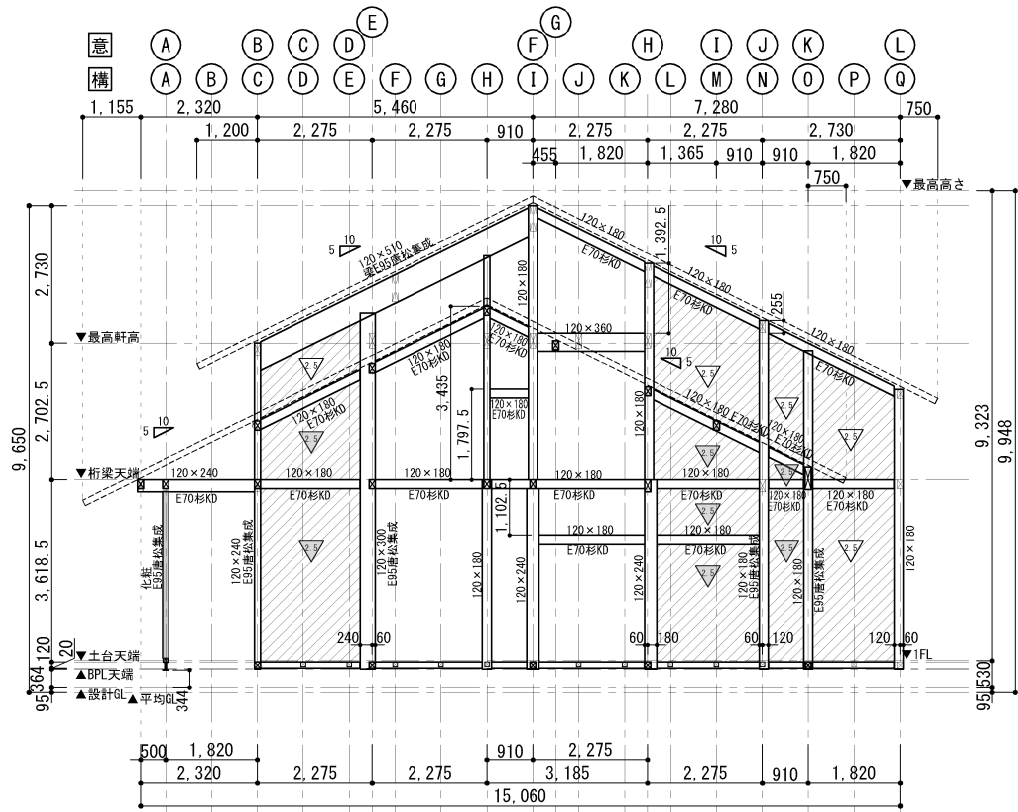
KES120仕様

土台は120×120 (E70桧製材)
大引きは90×90 (E70桧製材)
際根太は45×120 (杉製材)
指定なき柱は120×120 欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき束は120×120 欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき平柱の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
は化粧 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
火打金物はビス留め火打ち
雲筋交いは30×90 (杉製材) (たすきかけ) 3-CN75留め
振れ止めは90×90 (E70杉製材)
垂木掛けは45×120 (杉製材)
落とし込み垂木は45×120@455 (杉製材)
垂木は45×120@455 (杉製材)
ケバ 垂木45×120 (杉製材) は軒先から@455
ケバ 補強材は120×120 (杉製材)
二重垂木のケバ 垂木は垂木天端から
30mm角@455で通気用の切り欠きを設ける

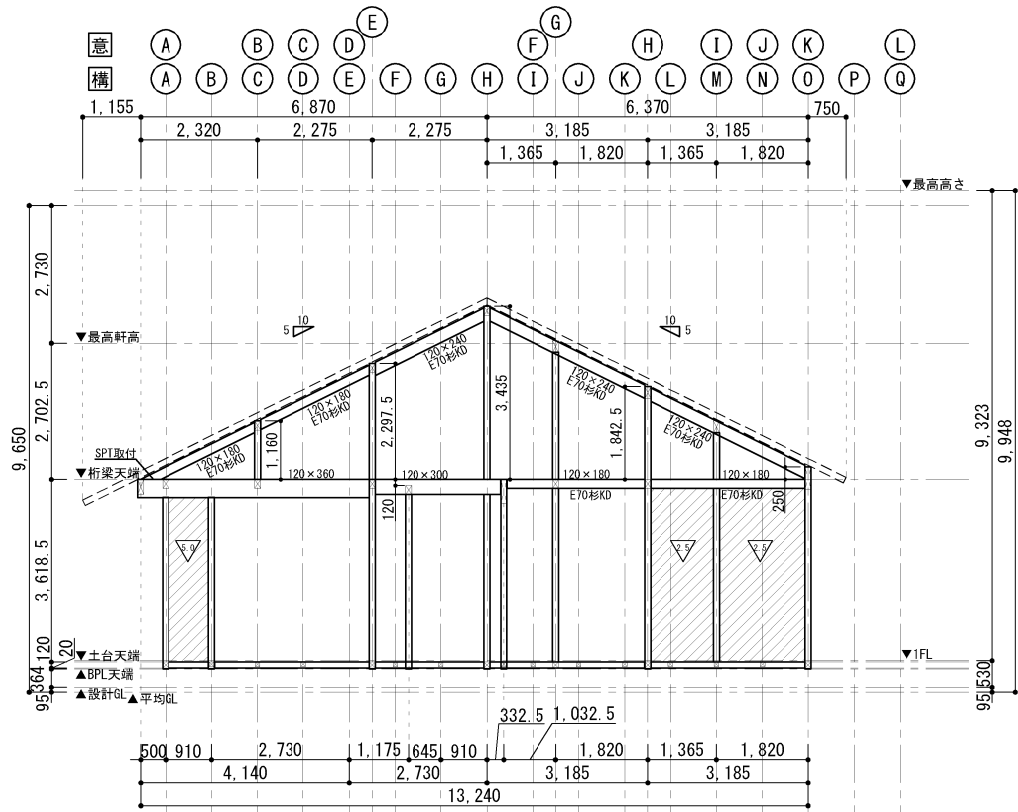
ケバ 垂木切り欠き詳細図 A1=1:15 A3=1:30



工事名	日野市立まんがんじ児童館改築建築工事			
図番	S-19	図名	軸組図(2)	縮尺 A1 1:75 A3 1:150
作成 年月日	監理 日野市総務部建築営繕課			
訂正 年月日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会館 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			



構造軸組図 (9通り) 意匠番付 (3通り)



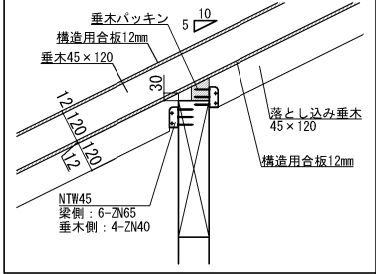
構造軸組図 (29通り) 意匠番付 (12通り)

耐力壁凡例 は耐力壁位置を示す

凡例	壁倍率	各面の仕様	面材の仕様	釘の仕様	納まり参考図
5.0	5.0倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
		＜真壁側＞ 2.5倍	構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
5.0	5.0倍	＜真壁側＞ 2.5倍	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@100mm以下	
		※両面真壁			
2.5	2.5倍	＜大壁側＞ 2.5倍	火山性ガラス質複層板 9.0mm (参考:ダイライトMS)	外周部 N50 (又はSF50)@100mm以下 中通り N50 (又はSF50)@200mm以下 受材30mm×40mm以上 N75@200mm以下	
2.5	2.5倍	＜真壁側＞ 2.5倍 (合板)	構造用合板 9.0mm 又は 構造用パネル (OSB) 9.0mm	外周部・中通り CN50@150mm以下 受材45mm×60mm以上 N90@200mm以下	

※石膏ボードの真壁・床勝の受材は見付30mm×60mm以上 釘N75@200mm以下留めとする。
※すべての仕様は床勝・壁勝どちらにも対応可とする。

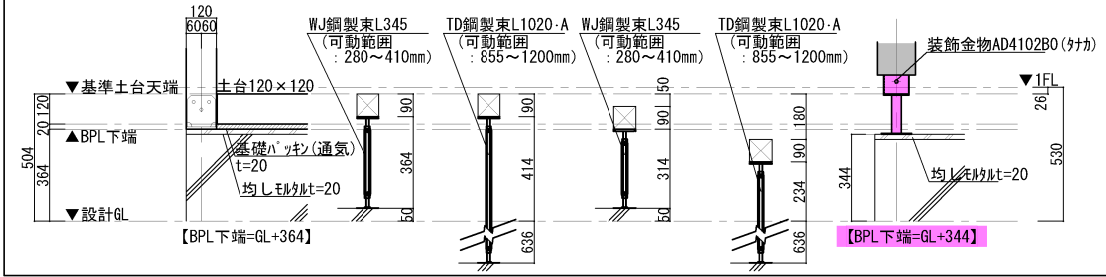
二重垂木詳細図 A1=1:15 A3=1:30



非耐力壁の面材釘ピッチ

材料	釘	ピッチ
構造用合板	N50	@200程度
石こうボード	GNF40またはGNC40	@200程度
火山性ガラス質複層板 (参考:ダイライトMS)	外周部	N50またはSF50 @100以下
	中通り	N50またはSF50 @200以下

柱脚レベル詳細図 A1=1:15 A3=1:30



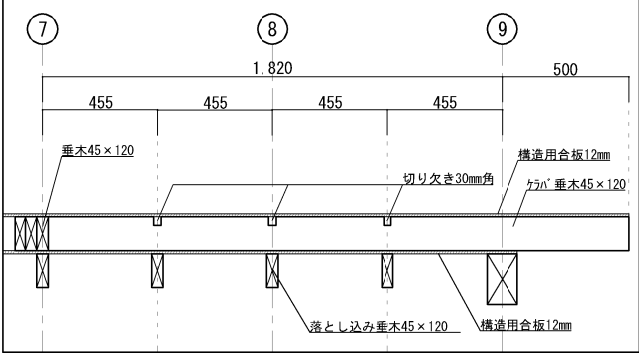
1F階高: 3618.5

根太レス	野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
基礎パネリング(通気) 厚さ20mm	1層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
床合板910×1820×24mm CN75@150以下 川型	2層目野地合板910×1820×12mm CN50@150以下 川型
壁合板910×1820×9mm ※外周部は火山性ガラス質複層板を使用 (参考:ダイライトMS)	二重垂木

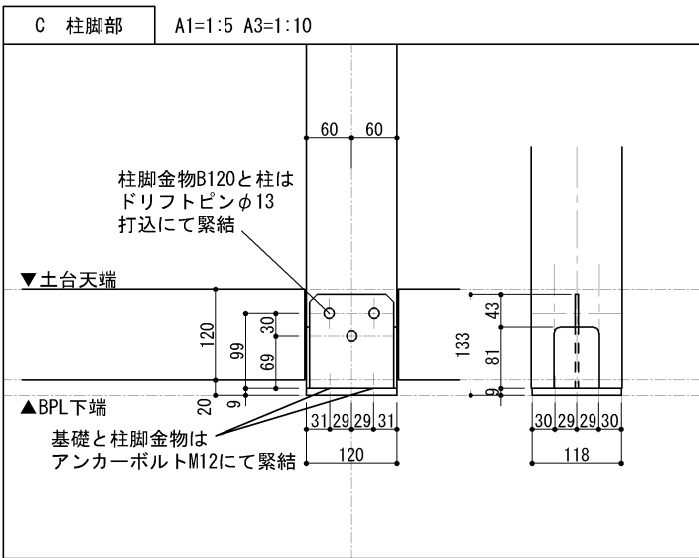
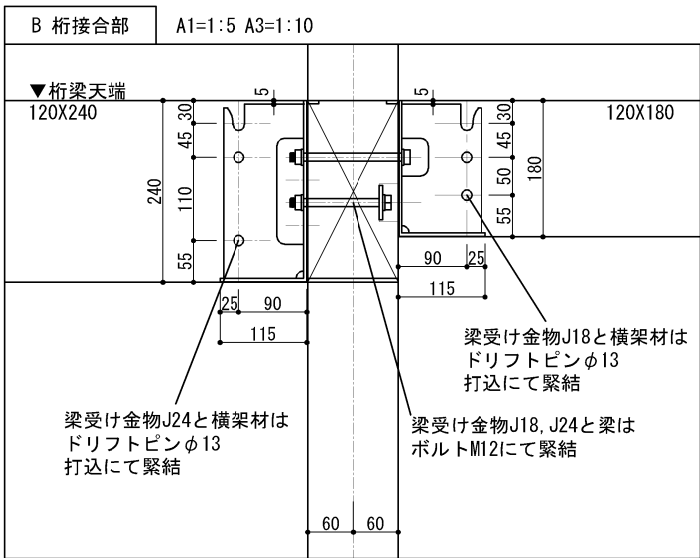
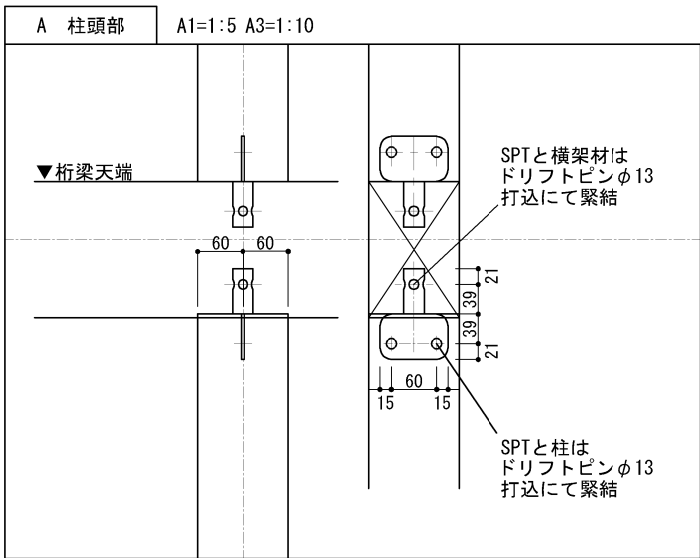
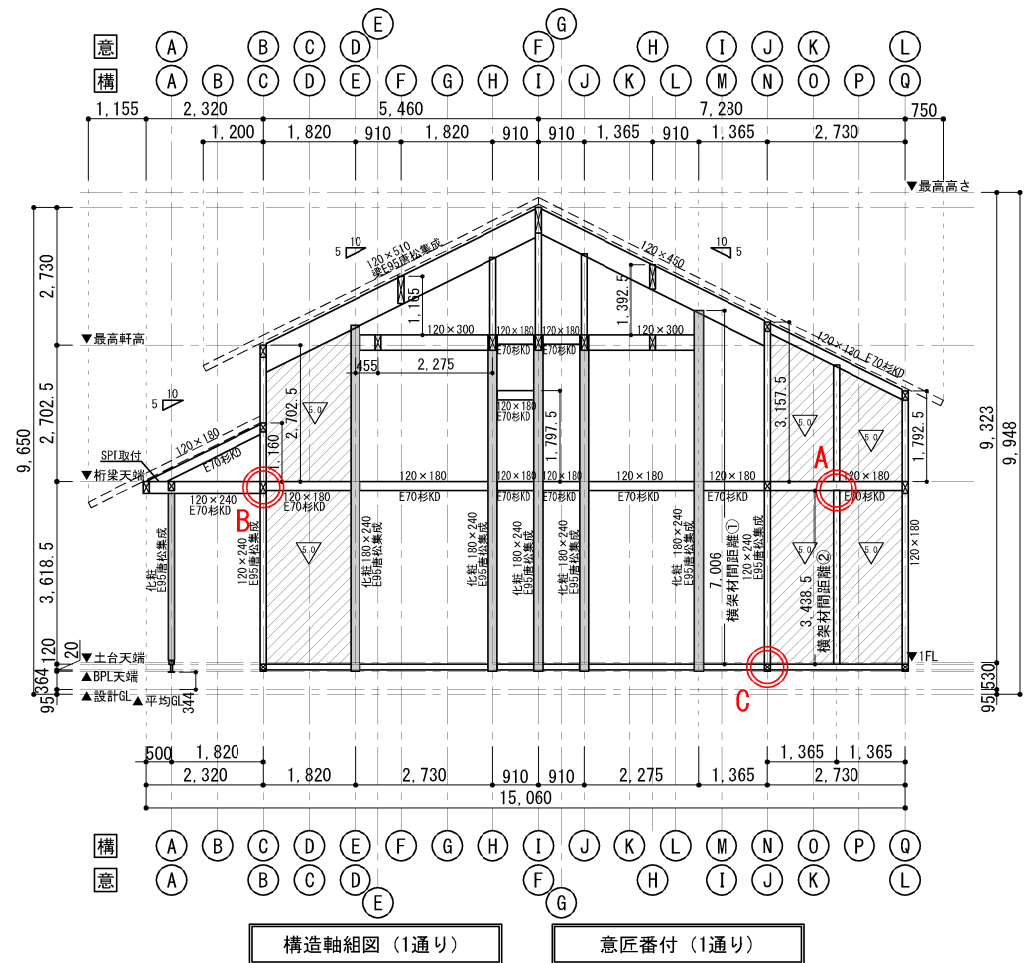
KES120仕様

土台は120×120 (E70桧製材)
大引きは90×90 (E70桧製材)
際根太は45×120 (杉製材)
指定なき柱は120×120 欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき束は120×120 欧州赤松集成材同一等級E95-F315)
指定なき平柱の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
は化粧 (唐松集成材対称異等級E95-F270)
指定なき梁の樹種は欧州赤松集成材対称異等級E105-F300
火打金物はビス留め火打ち
雲筋交いは30×90 (杉製材) (たすきかけ) 3-CN75留め
振れ止めは90×90 (E70杉製材)
垂木掛けは45×120 (杉製材)
落とし込み垂木は45×120@455 (杉製材)
垂木は45×120@455 (杉製材)
ケバ 垂木45×120 (杉製材) は軒先から@455
ケバ 補強材は120×120 (杉製材)
二重垂木のケバ 垂木は垂木天端から
30mm角@455で通気用の切り欠きを設ける

ケバ 垂木切り欠き詳細図 A1=1:15 A3=1:30



工事名	日野市立まんが館児童館改築建築工事			
図番	S-20	図名	軸組図(2)	縮尺 A1 1:75 A3 1:150
作成 年月日	監理 日野市総務部建築営繕課			
訂正 年月日	設計 株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所会 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 曾野孝			



屋根葺きの仕様
ガルバリウム鋼板t0.4 横置き
はぜの间隔250mm
吊り子の间隔455mm
一か所N50釘2本留
改質アスファルトルーフィング
構造用合板t12
垂木45×120@455

柱の有効細長比について
[化粧柱180×240] $\lambda = Lk/i$
 $i = \sqrt{I/A} = 6.928\text{cm}$
 $\lambda \textcircled{1} : 700.60\text{cm}/6.928\text{cm} = 101.13 < 150$ よってOK
[柱120×120] $\lambda = Lk/i$
 $i = \sqrt{I/A} = 3.465\text{cm}$
 $\lambda \textcircled{2} : 343.85\text{cm}/3.465\text{cm} = 99.24 < 150$ よってOK

工 事 名	日野市立まanganじ児童館改築建築工事			
図 番	S-21	図 名	構造詳細図	縮 尺 A1 1:75 A3 1:150
作 成	年 月 日	監 理	日野市総務部建築営繕課	
訂 正	年 月 日	設 計	株式会社 土屋建築研究所 一級建築士事務所 事務所登録 東京都知事 第16988号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野孝	